

に

にあい (にあひ) (煮合) 【名詞】 大根を薄く短冊状に刻み、茹でて味噌和えにした物。にあえに同じ。

にあい (にあひ) (似合) 【名詞】 よく釣り合う事。相応。

にあう (にあふ) 【自ワ五】 似合う 釣り合う 適合する (三重県全域) [会話] 猫には にやわん (似合わない)、その服 よお (よく) ニアウなあ。

にあえ (にあへ) 【名詞】 大根を刻んで茹たものを味噌であえたもの [会話] だいこ (大根) 刻んどいて (でおいで)、しらだきに炊いといて (ておいで)、摺り鉢で 味噌、摺っといて (ておいで) それへ 放り込んで ニアエや (だ) 言うて 美味いねてや (のです)。

にあがる (煮上) 【自ラ五】 完全に煮終る 炊き上がる 沸騰する

にあげる 煮る

にい (荷) 【名詞】 人、馬、車、船などで運ぶ物 (員、三、鈴郡、鈴市、一、松、多、上、阿、張、名、伊、北、尾)

にい (二) 【名詞】 1) ふたつ、一に一を加へた物。

2) 次、二番目。(員、三、鈴郡、鈴市、一、松、多、上、阿、張、名、伊、北、尾)

にい 【名詞】 兄 あにいの略 (志 (船越、立神、国府)、鳥 (神島、加茂、浦村)、桑市、員、三、鈴市、久、一、飯、松、多、上、阿、張、名、度、伊、南、熊、) [会話] ニイヤン。ニイヤン言うのなあ (のです)。アニとか、アニヨ言うて 昔や (は) 皆 アニヨ 言うて。アニヨてら (とか) 姉よとか 小母よたら (とか)、おばきよ、小母さん言わんと (言わずに) 小母よ言うて。小母貴 (小母さん) やたら (だとか) 叔父貴やたら姉貴やたら 言うて。おば (未婚) でおるひた (いる人は) おばき 言うて。結婚せんと (せず) におる人は 別んも (特別に) おばき言よおったなあ (言っていました)。

にいさん 【名詞】 若い男に呼び掛ける言葉。(南)

にいじゅ 【数詞】 二十 (鳥 (石鏡)、松)

にいちゃん 【名詞】 年上の男子を言う。

にいなかつとる その人の力量以上で有る。力不足。(志 (布施田))

にいにい 【名詞】 蟬 にいにいせみ セミ科 小形の蟬 全長 35mm 内外 体は、頭部、前胸部が暗黄緑色、その他は黒色。胸部背面に黄緑色のW字形紋がある。前

羽に暗褐色内至黒褐色の雲形斑紋があり後羽は黒色で外線が白い。鳴き声はニイニイ、又はチイチイと聞こえる。

にいやん 【名詞】 兄 (志 (浜島)、鳥 (加茂、坂手)、三、鈴市、松、多、度、伊、熊) [会話] 兄さん 言うのニイヤン 言う人な (が) 有るなあ。

にえあがる (煮上る) 【自ラ五】 1) 沸騰する 2) 集団がよく騒いで居る。[会話] 1) ニエアガル。にやがって来たよって (から) 蓋とんど (取るぞ)、煮えこぼれるよって 蓋 取っとけ (取っておけ) 言うて。芋にやげ いもんにやげ 芋の煮上げ言うの (のを) いもんにやげ、今日は いもんにやげしよおやんかれ (しましよう) 飯な (が) ちよいと (少し) 足らんよってん (足りないから) 言うて、飯な (が) こたらん (少し足りない) よおなよって いもんにやげして 食おやんかれ (食べましよう) 言うて、飯のかたつぶし (補い) いもんにやげ。ニエアガル言うな (言うのは) 沸騰 湯気な (が) 出て来ると にやがって来た よって (から) 煮えこぼれる もん (物) なら くど (火を焚く所) な (が) 汚れるよって (から) はよ (早く) 蓋いじっとけ (ずらしておけ) 言うて、ちよいと (少し) いじらかして (ずらして) 煮えこぼさん よおん (こぼさないように)。

にえくりかえる (にえくりかへる) (煮え繰り返る) 【自ラ五】 1) ぐらぐら煮えて沸き返っている (尾) 2) 怒りでひどく腹が立つ 3) 大騒ぎする。[会話] 1) ぐらぐら沸騰しいきつとると (しきっていると)、ニエクリカエル そやあれ (それ) 言うて、沸騰してぶうつとして来るばかやなしん (だけでなく) ぐらぐらと言うて 薬罐の蓋でも ことんことん言うて ニエクリカエル。ことんことん言うて、跳ね上げて来る やんない (でしよう)。まあ そや (それ) ニエクリカエットンナイ (ている) 言うて。にやがるは 湯気な (が) ぶうつと 出て来る、湯気立てて。ニエクリカエル言うな (言うのは) でんぐり返る。2) そおすと (そうすると) 自分らでも 人ん (に) なんやかや (いろいろ) 言われるやんない (でしよう)、そすと (そうすると) ごおなわいて (腹が立って) ごおなわいて 腹わた (臓腑) な (が) ニエクリカル 言うて ものすごお (ものすごく) ごおなわく時、はらわたな (が) ニエクリカエル。

にえこます 1) 急いで走る 2) 落ちる 3) 撲る

にえこむ (煮え込む) 【自マ五】 1) 飛び込む 落ち込む 滑り落ちる (志 (布施田、浜島、鶴方)、鳥 (国崎)) 2) 急ぐ [会話] 1) ニエコマシテタ (行った) 言うやんかい (言います)。谷い (に) ニエコンデタレ (で行った) 車ごち (ごと) 言うたり。2) ものすごお (ものすごく) 走って、いきよい (勢い) よお (よく) 逃げてくのを (行くのを) ニエコム言うて。走りきってたれ (で行った) 言うのを、ニエコンデタレ (行った) 言う。1) ずりこんでたり (すべり落ちて行ったり) すんのも (するの) 車ごち (ごと) 谷い (に) ニエコンデタとか、にげ (人間) な (が) 谷向いて (向って) ニエコンデタ てやら (とか) 言うて、谷い (に) おってくのを (落ちて行くのを)。

にえこんでく 1) 急いで行動する 急な行動を表す 2) 落ちて行く。[会話] 1) はいから (重り) で 行くよってん (から) やんない (でしょう) ニエコンデクよってん (から) はたひろ (二十尋) でも、じっさくん (すぐに) 底い (へ) 行かれる。

にえじた 【名詞】 荒布など積み上げた物の下の部分 [会話] ニエジタ言うな (言うのは) ぼおし (積み上げた物) の一番下を、しっかり 締まっとる (ている) やんない (でしょう)、そやよって (それだから) ニエジタ 娘の子ん (に) くれ (やりなさい) 言うて。

にえしろ 【名詞】 元気がない人 [会話] 元気がない人を ニエシロみたんい (のように) しとる (している)、元気な (が) のおて (無くて) なめなめと のそっとしとる 人を ニエシロみたいな人やなあ (だなあ)。のそのそして はっきりせん (しない) 人を。

にえつまる (煮詰) 【自ラ五】 1) 水分の無くなる迄煮てしまう。 (南) 2) 決論が出る。

にえてく 立消えになる。

にえてく 暑い。

にえてた 中止のなった。立ち消えになった。(志 (布施田))

にえとられ 1) 煮えて居る、にえる参照 2) 集団が騒いで居る

にえとる 1) 集団の騒ぎが最高調で有る。盛り上って居る。2) 夏の暑さで体が弱っている。3) 煮えて居る。

にえのくい 【形容詞】 煮えぬくい [会話] 小豆でもひねん (古く) になると ニエノクイもんで (ので) 炭酸入れて。

にえる (煮える) 【自ア下一】 1) 水、或いは汁が沸き立ち、その中に入れた物に熱が通って食べられるようになる。水が沸き立って熱い湯になる。2) 甚だしく怒る 腹が立つ 3) 集団が喧ぐ盛り上る。話がにえる (津) 4) 立ち消えになる。5) 相談がまとまる、決着する [会話] 1) まあ (もう) ニエテキタレ (来た) 言うて、芋んにやげ (芋の炊いた物) 炊いて ニエテキタかして (と見えて) こわれ (これ) かざ (匂い) な (が) して来たれ (来ました)。煮え終わった時でも 煮えたれ (煮えた) 蓋 取って見て 突いてみたや (見たら) やいこい (柔らかい)、まあ (もう) ニエトラレ (煮えている) 言うて。炊きあがる 炊きあがったの (のを) ニエル 言うて。

におい (にほひ) (匂、臭) 【名詞】 ただよい出て嗅覚を刺激する気、かおり、くさみ 悪臭 (志鳥、桑市、四、鈴市、亀、津、一、度、伊、北、尾、南) 芳香 (志、鳥、桑市、四、鈴郡、鈴市、亀、津、一、飯、松、多、阿、度、伊、北、尾、南) [会話] ニオイ、かざ、香り、かざな (が) する 言うね (言うのです)、ニオイな (が) する言うの、(のを) へえ (屁) は、なりもん (鳴物、楽器) の 頭にて 琴、三味線に ニオイなし 言う。おおた この しょから (塩辛) ニオイな (が) わりなあ (悪い) 言うてなあ、しょからでも うまくさいい (美味そう) のおな (が) 有るし、なんやら (なにか) 樽肥 (肥料) 臭いのおな 有って。

におい (匂) 【名詞】 気配

におう (似合) 似合う。(南)

におう (にほふ) (匂) 【自ワ五】 1) 匂う。匂がする。

2) なんとなく気配がする。

におお (におう、にほふ) (匂) 【自ワ五】 1) 匂ふ 匂いがする 匂いをかぐ 2) なんとなくそれらしい気配がある (南)

におお 似合う

におけ (のをけ) (荷桶) 【名詞】 天秤棒で担ぐ桶。(三重県)

におて 臭って (北) [会話] ニオテ言うて かざ (臭い) な (が) ぷんぷんして来る 言うねやろ (言うのでしょう) 焦げくさい臭な (が) して来た、ニオテ来たなあ 言うてな。

におて 似合って [会話] あの着物 着とると (着ていると) よお (よく) ニオテ おおた あのひた (人は) あいな (あんな) あらくたい (粗い) の (のを) 着ると なんも (少しも) にやわせんなあ (似合わない)

い) 言うたりなあ。

におとる 1) 匂って居る。2) 気配が有る。

におとる 似合って居る。

におも (荷重) 【名詞】 荷の重い事。仕事、責任が能力
以上で有る事。

におわす (にほはす) 【他サ五】 ほのめかす。それとな
く言う。

にかいのあまど 【俚諺】 二階の雨戸 縁遠い 縁がない
【会話】 ニカイノアマドで 縁がない言うて。娘な
(に) 貰い手な (が) 無いと、おらげ (俺の家) の娘
や (は) ニカイノアマドで縁がのおて (無くて) 言う
て 縁な (が) のおて 嫁ん (に) 行かせん (行かな
い) 言う事を

にかいのわかいしゅ 【名詞】 鼠

にがうり 【名詞】 植物、つるれいし。ウリ科のつる性の
一年草。茎は巻ひげで他物にからむ、葉は掌状に深裂
し、あらひ鋸歯が有る。果実は 10~20 cm の長随円
形で疣状の突起におおわれ、黄赤色に熟し先端から三
片に裂開する。果肉は甘い果皮は苦い (三重県全
域)

にがうりくうたよおなかお 【名詞】 渋面を作って居るこ
と 難しい顔つき 【会話】 こんじょくさり (根性腐
り・意地悪) みたよん (のように) して、顔も しか
めやあるいて (しかめて) まいのき (眉) しわ寄せて
怒ととる (ている) 人な (が) 有るやんかい (有りま
す)、ニガウリクウタヨウナカオや (だ) 言うて。む
っかし (難しい) 顔しとると (していると)。

にかえ 【名詞】 二階、天井裏 (鳥 (浦村)、三、松、張
伊北、尾、南) 【会話】 昔は ちゃあ (茶) を ニカ
エ へ上げたり あま (火を焚く上にある棚) へ あげ
たり しよった (して居ました)

にかえし (にかへし) (煮返) 【名詞】 二度三度と煮るこ
と 【会話】 ニカエシ言うのは ふたあくらめ (二度
目) 炊く事 ニカエシとけ (しておけ) 言うて、さめ
とんの (冷えているのを) いつまでおいとくと (置いて
おくと) いたんでくやんない (悪くなっていくでし
ょう) そやもんで (それだから) ニカエシとけ (てお
け) 言うて ひい (火) 入れるわけや (です) 炊き直
しとけ (ておけ) 言うたり 煮直しとけ (ておけ) 言
うたり。

にかえす (にかへす) (煮返) 【他サ五】 繰返す。蒸し返
す。済んだ事を再度、問題にする。

にがおもい (荷重) 責任が重い

にがかしたた。にがしたた 逃がしてしまった 【会話】

鳥つかめて (つかまえて) これん (に) 入れてあった
や (有ったら) ニガカシタタよお 言うて、ノガシ
タタ (てしまった) 言うのを、ニガカシタタ 言うね
(言うのです)。

にがかつとる (荷勝) 責任が重すぎる、仕事の量が多過
ぎる。力不足で有る。

にかご 【名詞】 煮籠 魚を煮る時の竹の簀 にかたかご
参照

にがしお (にがしほ) 【名詞】 苦潮 塩分の濃い潮。

にがぞ 【名詞】 いつも渋面をして居る人。

にかた (煮方) 【名詞】 調理場で物を煮るのを担当する
こと、又、その人 【会話】 魚を 煮付けすんのを
(するのを) ニカタ。ニカタ 頼まれて 言うて、嫁
取りの ごっつお (御馳走) や (とか)、七夜 (名付
け) や (だ) 言うてするとなあ、魚 おもさま (充
分) こおて (買って) それ 煮付けるのおを (のを)
ニカタシに頼まれて 言うて、上手な人んなあ (に)。
そすと にかたかご 言うのな (が) 有つてなあ そ
れい (へ) 魚 入れといて (ておいて) ばんりゅう
(木箱) ん (に) 何杯 言うて 炊いてなあ、こんだ
(今度は) ニカタの汁で ごんぼ (牛蒡) や (とか)
人参や (だ) 言うて 寿司のこお (具) 炊くね (ので
す)。

にかたかご (煮方籠) 【名詞】 大量に魚を炊く時、魚を
入れて鍋の底に敷く竹簀。型くずれを防ぐと共に鍋か
らの、出し入れを簡単にする 【会話】 ニカタカゴ言
うな (のは) 竹で てんてん (葬式) の時ん (に) 花
簀するやんない (でしょう) あれの竹 みじこお (短
く) 切ったた (てやった) のおをなあ (のを)。めえ
(目) な (が) あらきたい (粗い) のおい (のへ) こ
おして しぼつ といてなあ (ておいて) しゅつと あ
げるよん (ように) して有つて、ええの (よいので
す)。魚を鍋いすると とんのん (取るのに) 砕けて
くやんかな (て行くでしょう) 簀で上げてすると 砕
けんと (ずに)、座敷い (へ) 出すのん (に) 砕ける
と はざんやんない (いけないでしょう)。そして
煮えたら 上げて こっちやい (こちらへ) し といて
(しておいて) 汁 たらして 二つうつ (二つづつ)
して 交替に。冷めてから うちゃつたらん (壊さな
い) よおんなあ (ように)、熱いうちん (間に) する
と 砕けてくもんでなあ (て行くので)。

にかたし (煮方士) 【名詞】 宴会料理の魚を炊く人。に
かた参照

にがづら 【名詞】 苦い顔 むつかしい顔 渋面 (志 (布

施田)) [会話] ニガヅラしてまあ 言うてな 顔よお (よく) して しととなあ (していると)、苦瓜食うたよおな顔してまあ言うて、苦瓜食うと 苦いもんで (ので) 顔よお するやんかい (します)。

にがて (苦手) 【名詞】 1) 拇指の変形。蛇の首をあげたような指 2) 蛇を自由につかめる手、その手にかかるのと蛇が自由に動けなくなると言われる。

にかにかさる 腹に鈍痛が有る。

にがめる (苦) 【他マ下一】 睨む 注意して見る [会話] 横目で ニガメル 言うて、人な (が) なんやかや (色々) しとんのお (しているのを) 尻目でみん (見る) のを 横目で ニガメテ おこした (よこした)。

にかや 【名詞】 二階 上、下、二層になって居る物の上層部。高層建築物の下から二段目。屋根裏 (北) [会話] 二階の事を あの家の ニカヤ たっこおて (高くて) とか、ひつくうて (低くて) とか言うて、あの家の ニカヤなあ (は) ひつくうて おらな (俺が) 立ったら 頭 うちやつたられ (壊してしまう) 言うてな つきくだし (傾斜のある所) の 二階へ上ると 頭うちやよおったね (壊すところだった)。きい (薪) おろしん (に) たちやがったと (立ちあがってやると) ひらもん (梁) で 頭うちやつてなあ (壊して)。

にがら (煮殻) 【名詞】 1) 煮出した残りの物。にがらし、にがらすに同じ 2) 魚のあらを炊いて砕いた物。肥料にする。(度)

にからかす 炊き詰める 煮詰める [会話] ニッカラカシタタレ (してしまった) 言うて、煮え過ぎた 言うのを ニカラカシタタ言う時な (が) あんなあ (あります)。煮え過ぎしたた (してしまった) 言うのを ニッカラカヤシタタ (煮過ぎてしまった) まあ 言うて。あんまり (あまり) やいこお (柔らかく) しい過ぎたると (し過ぎてしまうと)、姿 (形) が崩れてはざん (駄目な) もん (物) は そお 言うわい (言います)。

にからし 【名詞】 何度か煮返した物

にがらし。にがらす 【名詞】 煮た後の粕、茶を出した後の茶の葉、だしを取った後のだし粕、昆布、鰹節など [会話] 鰹をなあ にだしに しよおって (して居て) それを だし、出しといて (ておいて) 上げとく の (ておくのを) ニガラシや (だ) 言うてなあ にだした後を あげといて (ておいて) 猫ん (に) くれたりすんのなあ (するのです)。

にがらす 1) 逃がす 2) 逃げさせる 逃げる手助けをする [会話] 1) 逃がしたた (てしまった) 逃げてた (て行った) 事をなあ。鳥つかめて (つかまえて) これん (に) 入れてあったや (有ったら) ニガカシタタよお (逃がしてしまった) 言うてな、逃がしたた 言うの (のを) ニガラス 言うね (言います)。

にがる (苦) 【自ラ五】 1) 腹が痛む。にかにかさる。(志 (志島)) 2) 困る。いやがる。

にぎあい (にぎあひ) (賑) 【名詞】 にぎわい 賑やかであること 盛り上がること (松、南) [会話] ニギアイ 見よまあ (見なさい)、やうち (一同) な (が) 寄ってまあ (集まって) あれやこれや 言うて 喋つとると (ていると) あの ニギアイ 見よまあ 言うて、もり上がつとる (ている)。

にぎおう (にぎほう) (賑) 【他ハ下一】 さわぐ。盛り上がる。

にぎおた さわいだ 盛り上がった [会話] ニギオタ 言うて 騒いどる (でいる)、やうちな (一同が) あいやこいや 言うて なんやかやと (いろいろと) 喋ってしとんのを (しているのを) ニギオテまあ 言うて。

にぎおて 喧いで 盛り上がって にぎおた参照

にぎったらはなさん けちん坊を言う (志 (布施田))

にぎにぎ 【名詞】 子供が手を握ったり開いたりする遊び。(上、阿)

にぎにぎし 【形容詞】 騒がしい。うるさい。

にぎやい (賑) 【名詞】 1) 人が大勢出入りして混雑していること。賑やかであること (鈴木、松、多、伊、北) 2) 大漁のこと [会話] 1) ニギヤイ言うな (言うのは) 人な (が) わいわいと にぎよとんのおを (賑っているのを)、騒ぐ 話して がやがや言う とると (言っていると) よお (よく) ニギヤウなあ言うて 今日 は なんかかして (何かあるのか) あの家や (は) どいらい (大変) よお (よく) ニギヤわれ (賑わっている) よお (よく) にぎよとるなあ (賑わっている) 言うて、てつたいど (手伝いの人) な (が) 来たり なんやかやして しとると (していると)。なんやらかして (何かと見えて) がいな (大変) 人な (が) おって (居て) にぎよとられ (騒いでいる) 言うて、あの家や (は) おめでたやなあ (だ) 言うて。2) 浜な (が) どいらい (大変) ニギヤイやれ (賑わいだ) 大漁かして (と見えて) 言うて じよおし (漁師) な (が) 来ると、浜でわいわい言うて 今日 は 大漁かして 浜な (が) がいん (大変) ニギヤ

ワレ 言うて。魚な (が) ニギヤウとは 言わせんけ
ど (言わないが)、魚の群れな (が) 来ると 鳥な
(が) さおぐ (騒ぐ) やんない (でしょう)。 そすと
(そうすると) 鳥な (が) ニギヤウよって (賑わうか
ら) あすか (あそこは) 魚な (が) わいとんなあ (群
れている) 言うて。 じょおし (漁師) の人ら (達) 鳥
山 見つけると。鳥山言うね (言うのです)、鳥な
(が) 群れん (に) なって、 さいらな (秋刀魚が) 跳
んどる (跳んでいる) とこい (所に) 上を まいまい
するわな (します)。 そすと (そうすると) 鳥山な
(が) ついたよって (から) 魚な (が) わいた言うて。
鳥な (が) 上ん (に) おつたら (居たら) 下ん (に)
さいらや、鯛な (が) 群れん (に) なつとんのなあ
(なっているのです)。鳥ななあ (が) 魚の群れが
来たもんで (ので) 上から見とて (見ていて)。鳥山
な (が) 立つとるよって (立っているから) 魚 わい
た 言うて それ向いて (向いて) おわえんの (追わ
えるのです)。

にぎやう【自ヤ五】 賑わう 騒ぐ 人が多く集まっている
にぎやい参照 (桑市、多、伊、北)

にぎやかし【賑】【名詞】 賑やかにする事。

にぎやかす【他サ五】 座をもちあげる 賑あうようにす
る [会話] ニギヤカシといて (ておいて) 来たれ
(来ました) 言うて。いろいろの事 言うて、喋つと
る (ている) とこい (所へ) いて (行つて)、わがと
も (自分も) 口はさんで 喋つて ニギヤカス。

にぎやす【他サ五】 騒がせる 賑わせる、ニギハハスの
略 にぎわすの訛 [会話] ニギヤス にぎやかす
一緒や (です)。

にぎよた さわいだ 盛り上った

にぎよて さわいで 楽しんで [会話] 少々 にぎ
やい (賑わい) や (で) なかつたれ (なかつた)、ま
せんざり (十分) ニギヨテ来たれ (来ました) 言うて、
わがとらも (自分も) ニギヨテ来ると ニギヨテきた
れ 言うて、騒いで来た 言うの (のを)。

にぎよとる 騒いで居る。盛り上がって居る。

にぎらかす【他サ五】 袖の下を送る。握手する [会話]
てえ (手) ニギラカシてくれえ (下さい)。握らして
くれ (下さい) 言うて、今し (今) で言うと 握手や
(です)。袖下 ニギラカス、つこどいて (掴んでお
いて) 袂い (へ) やんのをなあ (入れるのを) ニギラ
カス言うて、なんでも ちよいちよい (少しづつ) 舐
らさなあ (なければ) ちよいと (少し) 舐らしとく
と (ておくと) また 違うねてや (のだ) 言うてなあ。

にぎりきんだま【名詞】 懐手を伸ばして陰囊を握る 閑
かな事 (志 (布施田)、員)

にぎりばさみ【名詞】 日本鉋 手に握り持って切る鉋。
(上、阿、度)

にぎりや【名詞】 けちん坊

にぎわい (にぎはひ)【名詞】 1) 賑わい。座の盛り上
り。(多) 2) 魚の群、魚の群が有って、よく獲れる
こと

にぎわう (にぎはふ)【自ワ五】 賑かである 盛り上が
る さわぐ [会話] ニギワウ 言う人も 有るしな
あ、にぎやう 言う人も 有るしなあ。

にぎわす (にぎはす)【賑】【他サ五】 座をとりもつ 賑
やかにする [会話] 賑やかに する 言う事をなあ
ニギワス。

にくいこはちゃであかせ【俚諺】 憎い子は茶で腹を満た
させよ。(志 (布施田))

にくし。にくしがん【名詞】 肉腫 非上皮性の悪性腫瘍
[会話] にくな (が) 腐つて来る病氣。ニクシ、ニク
シガンで 鼻や (とか) 口から 吐いて来る息な
(が) くそおて (臭くて)。

にくじばん (肉襦袢)【名詞】 肌色をした肌着

にくじゃつ【名詞】 肌着

にくたらし (憎い)【形容詞】 にくたらしい いかにも
憎らしい (志 (布施田、浜島、鶴方、神明、立神、国
府、安乗)) [会話] ニクタラシ言うて。面な (が)
憎い。あや (彼は) 面な (が) 憎いよおなあ (よう
だ)、ニクタラシなあ 言うて。わり (悪い) 事する
と、あのかあ (子は) おっちゃん (横着) で ニクタ
ラシなあ、ニクタラシよおな こおや (子供だ) 言う
て。よお (よく) 言うやんかい (言います) おっちゃん
くな子を。

にくたれぐち (憎口)【名詞】 憎まれ口 口答え 悪口
[会話] ニクタレグチ 言うてまあ。人の好かん (嫌
な) 事 言うのをなあ、ニクタレグチばつか (ばかり)
言うて 好かんあ (嫌だ) 言うてなあ。そして
子ららでも (子供でも) のお (お前) みたいな (のよ
うな) もん 死んでけ (死んでいけ)、婆くさ 爺く
さ言うて言う 子らを、ニクタレグチ 言うて 好かん
(嫌な) こおやなあ (子供だ) 言うてなあ。婆くさ
死んでけ (死んで行け)、爺くさ 死んでけ 言うて
憎まれ口なあ ニクタレグチ。

にくづらい【形容詞】 憎らしい 生意気だ (伊賀地方)
[会話] 憎らしい 言うのをなあ、面な (が) 憎い
よおなあ (だ) 言うて、あの こお (子) は、おつ

ちゃく(横着で)で 面な(が) 憎いよおななあ 言うてなあ。好かん(嫌な) こお(子)をなあ 大人でも 好かん(嫌な)事 言うとおた あのひた(人は) 好かん、ニクヅライよおな人やなあ(だ)言うてなあ。

にくにくし【**形容詞**】憎らしい【**会話**】ニクニクシ言うのも 憎たらし 言うのも 一緒やなあ(です)。べつんも(特別に)怒ったよん(ように)言うとおた べつんも ニクニクシ よおななあ(ようだ)憎くたらしよおな 言い方やなあ(だ)言うてなあ。

にくぶとん【**名詞**】一緒に寝る婦人(員)

にくまれぐち【**名詞**】人に嫌がられるものの言い方。悪口、皮肉などを指す。

にくまれもん【**名詞**】憎まれる人。誰からも相手にしてもらえない者。

にくらし【**形容詞**】憎い にくたらしに同じ【**会話**】爺くさ 婆くさ言うて ごおなわく(腹が立つ)時ニクラシ事を。

にげ【**名詞**】人間(志(片田 布施田))【**会話**】人の事を ニゲや(と)言うて。あのニゲ 見よまあ(見なさい)言うて。ニゲな(が) たかつとんない(集まっている) なんか(何か) かいなあ(あるのでしょうか)言うて。人間言うのを 略して ニゲや(です)。あやまあ(彼は) あげな(あんな)ニゲやよつて(だから) あきらめたらな(あきらめてやらなければ) はざんわれ(駄目だ) 気な(が) 無いとか、おつちやくぎ(横着な性格) な(が) あるとか 言うな(言うのは) あやまあ(彼は) あいな(あんな)ニゲやもん(だから) こつちや(こちら)から あきらめたらな はつざん ニゲなあつて(が有ります)。

にげ(逃)【**名詞**】逃げる事 のがれる事

にげあし(逃足)【**名詞**】逃げようとする足つき、逃げる速度、また逃げる事【**会話**】逃げてく(て行く)時の 早いのなあ(です)。ニゲアシな(が) 早よおて(早くて)そこらん(に) おらせんない(居ない)。

にげあるく(逃歩)【**自カ五**】逃げる。追われてあちこち逃げ回る【**会話**】ニゲアルク ニゲヤアルイテ言うてなあ、逃げてくのを(て行くのを)。来い言うても まあ どこやかやい(あちらこちらへ)ニゲアルク 言うてなあ。

にげうせる(逃失)【**自サ下一**】逃げて行方をくらませる 逃亡する【**会話**】逃げてうしゃがつたれ(行った)、あのがきや(子供は)、ここん(に) おれよお

(居なさい)言うたのおん(のに)ちゃんと 何処やらい(かへ)逃げてうしゃがつて(うせやがつて)おらせんわれ(居ない)言うて、逃げてて(て行つて) おらへん(居ない)言うのをなあ ニゲウセル。

にげがち(逃勝)早く逃げた者が得をする。我先にと逃げる。

にげぐち(逃口)【**名詞**】逃げる時、相手を罵って言う言葉【**会話**】○○○ なだ(沖) いて(行つて) 人魚のいお(人魚) 釣ったや(釣ったら)人魚のいおな(が)色々たたり事(恨み事)言うもんで(ので) 放したたや(放してやったら)、行く時ん(に) さて ひんそ(貧相)な○○○ 肌(鱗)一枚が千両千両言うて ニゲグチ 言うといてた(言っておいて行つた)。

にげごし(逃腰)【**名詞**】逃げようとする態度 責任などを回避しようとする態度(志(布施田))【**会話**】ニゲゴシで まあ 言うなあ(言います)いきごし抱えとんのおを(ているのを)ニゲゴシして言うてなあ、行ことしとんねけど(しているのだが) 話な(が) 切れんで(切れなくて) そいな(そんな) 時な(が) 有るやんかい(有ります)ニゲゴシしとんのん(しているのに)、話して来て まあ ニゲゴシで聞いとた(ていて)言うてなあ。

にげじり(逃尻)【**名詞**】にげごしに同じ。逃げようとする態度。

にげじりかまえて 逃げようとしている態度をとって居る。

にげてた 逃げて行つた。

にげのうち【**名詞**】人間の家。家庭。家族。(志(布施田))

にげたん 逃げたの。

にげたんか 逃げたのか。

にげてったん 逃げて行って下さい。たんは頼みますの義。

にげのがれた 1) 逃げて、災難を受けなかった。
2) のがれる事が出来た。まぬかれた。

にげのむしもおらせん 誰もいない 留守である【**会話**】おや(俺は)この家 来たてや(来たら)人氣(ひとけ) な(が) 無いし ニゲノムシモ オラセンワレ言うて。ニゲノムシモ オラセン言うな(言うのは) ひとおり(一人)も 人が おらせん(いない)言う事

にげはる 言い逃れようとして盛んに言う。

にげまある(逃回)【**自ラ五**】逃げ廻る あちこち捕ま

らないように逃げる

にげみち (迷路) 【名詞】 言い逃れる方法、又責任を逃れる方法。

にげみちはる 言い逃れようと一生懸命になる。

にげやあるく 逃げる 逃げまわる [会話] 逃げてく
のをなあ (て行くのを) 来い言うても まあ ニゲヤ
アルイテ どこやかやい (あちらこちらへ) 言うてな
あ

にげやい 【名詞】 我勝ちに逃げる事。

にげやせん 逃げない

にげよん 逃げましょう。逃げよう。(多)

にご 二合

にごおて (にごうて) 苦くて (志)

にごごり 【名詞】 魚の煮汁の冷え固まった物。

にごつく 【自カ五】 1) 雨雲が切れて陽が射して来た
2) にこにこ笑う にこにこしてきた参照 (員、鈴市)

にこにこしてきた 1) 雨雲がきれて薄日が射して来た
2) にこにこ笑って来た [会話] 2) ニコツク言うの
も ニコニコシテキタ言うのも 一緒や (です)。今
し (いま) 迄 泣いとたや (ていたら) あやれ (あ
れ) ニコツイテ 来たれ あの子も言うて、機嫌な
(が) 治って来たのをなあ。1) 天気でも よお (よ
く) なって 来ると まあ ニコニコシテキタやんか
あ (でないか) 言うて

にごはん 【名詞】 二合五勺、馬鹿 (志、鳥)

にごらかす (濁) 【他サ五】 1) 濁るようにする 透明
度を下げる 2) あいまいにする ごまかす [会話]
1) 捏ねて ニゴラカスなまあ 言うてなあ。水を澄ま
して あんのをなあ (有るのを) 捏ねると よけまあ
(あまり) 捏ねて ニゴラカスなまあ 澄まして あ
んねどお (有るのだ) 言うてなあ。濁すなまあ よ
け (あまり) 言うてなあ、底い (に) とごつとる (沈
んで居る) 泥を 捏ねると まあ こや (これは) そ
つと (静かに) 澄まして あんね (有るの) よつて
(だから) よけ こねんなまあ (捏ねるな) 言うて

にこらほこら 嬉しそうな顔つき (志 (布施田))

にざ 【名詞】 にざだい くさはざ、きんじるし参照
(志、度)

にざかな (煮魚) 【名詞】 煮た魚。煮るのに適した魚。

にざまし (煮冷) 【名詞】 食べ物や飲み物を煮た後冷ま
す事、又その物 [会話] 煮えたのおを (のを) さま
す、ニザマシ 言うねやろなあ (言うのでしょうか)。

にし (西) 【名詞】 西風 (志 (安乗、布施田、船越、片

田、磯部、立神、鶴方、神明、甲賀、志島、国府、名
田、的矢 安乗、御座)、鳥 (鳥羽 安楽島 国崎
板手)、桑郡 (赤須賀)、四 (磯津)、安 (河芸)、一
(嬉野、香良州)、多 (明和)、度 (南島)、伊 (大湊
一色 村松 有滝)、北 (長島 島勝)、尾 (古江 梶
賀浦 須賀利 行野浦 九鬼)、南 (阿田和)、熊 (二
木島)) [会話] 西の風な (が) 吹いた 言うて、今
日は ニシやれ (だ) 言うて。天気な (が) ええ (よ
い) ひいは 今日はニシやれ (だ) 言うて、風は言わ
んと (言わずに)。「東曇れば雨とやら ニシが曇れば
風とやら」言うて。朝鮮でせつばらみ言うて 西の風
やてや (です)。朝鮮まで いて来たんよつて (行っ
て来たから) 朝鮮ごなしや (です)。

にし (螺) 【名詞】 法螺 れいし類 [会話] ニシ (二
四、法螺) も六 ささ (三、三、笹) も六 いちご (一
五、苺) も、六 言うて ニシは 旨いけどなあ (美
味しいです)。ヨリアイニシ 桶ん (に) 一杯つ 寄
つとる とこな (ている所が) 有るけど、たま (網)
持つとらせんし (てないし) てえ (手) でして来たて
て (来ても) 幾らも 出来やせんし (出来ないし) あ
げな (あんな) 時ん (に) たまな (網が) ほし (欲し
い) 事や (だ) 思て (思つて)、そやよつて (だから)
にげ (人間) でもなあ よけ (沢山) 固まつとる
と (集まっていると) ヨリアイニシみたよなあ (の
ようだ) 言うて、ニシ言うて 法螺、法螺でも 寄つ
とる (集まっている) 時な (が) あんなあ (有りま
す) ヨリアイニシ、してなあ。

にしあかり (西明) 【名詞】 西の方が明るいこと 1)
天気が回復する前兆 2) 日没後の残照 [会話] 2)
ニシアカリ 言うて 西の明りな (が) けえたれ (消
えた) 言うてな。日な (が) 陰つてく (陰て行く) 時
はなあ ま 西の明りな (が) 消えたのんなあ (の
に) まだ 来やせんない (来ない) 言うて、おっそい
と (遅いと) さいごなあ (その時)。

にしあなぜ 【名詞】 風の方向 北西の風

にしうら 【名詞】 東の風 [会話] ちよいと (少し) は
ばい (大胆な) 人ら (達) は ニシウラン (の) 時で
も しじくだつて (ずぶ濡れになつて) あつちい
(に) 飛び こつちい (に) 飛び。

にしきた 【名詞】 西北の風 (志 (磯部、大王、国府)、
四、伊、北) [会話] ニシキタ 西と北 風も そつ
ちから吹いて来ると ニシキタの風。

にじくりさがす でたらめをかく さかんににじくる
[会話] ニジクリサガス言うて 机い (に) なんやか

や (色々) 墨でも なんでも ニジクルやがな (でしよう)。ニジクリサガシテ まあ そこらい (へ) 言うて。なんやかや塗って 汚すと。ニジクリサガシテ 机も わや (目茶苦茶) やれ (だ) 言うて。子供らな (達が) 御飯食べとて (食べていて) そこいらじゅう (そのあたり全体) わややれ 口じゅう ニジクリサガシテ 味噌を。にじくりさんぼ言うの (のは) ニジクリサガス。

にじくりさんぼ でたらめを書く にじくる参照

にじくりつける 1) こするつける なすりつける
2) 乱暴に書き散らす [会話] 1) 葉 すりつけとけ
よお (ておけ) 言うてな、ニジクリツケン (る) のを。

にじくる (贗) 【他ラ五】でたらめを書く 塗る 塗りかける なすりつける 罪や責任を他に転嫁する (志 (浜島、布施田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥、一、上、阿、張、松、伊)

にしげ【名詞】西風の吹く事

にしこ【名詞】小さなにし (螺)。螺の子 [会話] 貝のニシコ (螺子)、いそど (磯人・海女) な 捨て (拾って) 来るけど 島の上ん (に) あんのは (あるのは) ちっちゃいわい (ちいさいです)。海ん (に) 寄っとる (寄っている) よりあいにしは おっきい (大きい)。ニシ言うな (言うのは) ほら (法螺) の仲間やけど (です)。つのぼらか ほんぼらか 判らん (判らない)。とびきぼらは なんやら (何か) かったいよおん (堅いように) したるけど (しているが) つのぼら ニシん (に) よお (よく) 似たよおなのおやよって (のだから)。つのぼらの尻 八反田とかよ (交換しよう) 言うもんやよって (のだから) うまいね (のです)。つのぼらの尻のとんがり焼くと。はったんだ 田の八反と 代えて食いたい 惜しない (惜しくない) 位 うまいんやろ (のでしょう)。ニシコ言うな (のは) 食うと 美味しいやんかい (美味しいのです)、法螺みたよん (のように) したんねけど (して居るのだが) ちっちゃいのおで、角な (が) 皆 貝についとんね (ついて居るのです) つぶつぶな (粒粒が)。美味しいねてや (美味しいのです) あやまた (あれは) そして、ニシコ 尻は どいらい 辛いね (のです)。そして 辛いとこ (所) を、生のうちん (間に) うちやつといて (壊して) 取って 字書きよおった (書いて居ました)。チョッキ (磯チョッキ・磯着) い (に) わが (自分の) 名前 書くの。そすと (そうすると) おってかせんの (落ちて行かない・脱色しないのです)。紫色ん (に) なって ええ

(良い) 色ん (に) なって めったん (めったに・絶対) 落ってかんで (行かなくて)、あれで 名前 書きよったね (書いて居たのです)。磯チョッキや いそなかね。それは 又 炊くと こんだ (今度は) 食うと 苦いねてや (苦いのです)。そやけど (しかし) その辛いのおな (のが) ええ (よい) 言うて。ニシコな (が) 好きな人な (が) 有るわい (有ります)。ヨリアイニシ (寄合にし) 言うて ひととこ (一カ所) ン (に) バケツ一杯も 寄っとる (て居る) 時な (が) あんね (有るのです)。こおする (産卵する) 言うやんかいなあ (言うのでしょうか)。一杯寄っとて (て居て) こおするやら (のか) なんやら (なにか) 知らんけど (知らないが)、いくかしら (何度も潜る) 言うて持たな (なければ) はざんね (だめなのです) それ一つ見付けると、バケツ一杯位なあ 寄っとる時な有んね (有るのです)。ヨリアイニシ 言うて。そして ニシでも 中の (肉の) きいよい (黄色い) 赤ぎいよお (赤黄色く) なったらちよいと (少し) 大っきいのおな (大きいのが) 有るやんない (でしょう)。そこらのへた (海岸) におんのおは (居るのは) 細かいし (小さいし)、ヨリアイニシは 大っきいて (大きくて) 美味いんの (いのです)。ヨリアイニシは 大っきいて 底に おんねてや (居るのです)。島の上に おんのは くろうおて (黒くて) ちっちゃいねけど (小さいのだが)、味は うなし (同じ) 事やけど、大っきいな (のは) 美味いわい (です) ヨリアイニシのほおは ちよいと (少し) 甘味も有んね (有るのです)。

にしなおとしてくる。にしなおろしてくる 強い西風が吹いてくる [会話] ニシナ (が) オロシテクル 言うね (言うのです)、西が吹いてくる 言うのなあ (言うのを)。

にしなはざる 西の空の雲が切れる。晴れになる。
(志 (布施田))

にしなひらく 西空の雲がなくなる 天気が好くなる [会話] 天気な (が) よおなって (よくなって) 来る、ニシナヒライテ まあ こや (これは) ええなあ (よい) 言うけど (が)。

にしのおちばなふねだすな【俚諺】西の風は強く吹いても急に止む時が有るので急いで帰らなくても風が止んだ時に舟を出して帰ればよい [会話] 西のおちばな (強風) は吹いて、吹いて、吹きまくんねけど (よく吹くが) ばたんと なんてく (風になる) もんで、なんだおりん (風いだ時に) くや (来れば) ええんよつ

て (よいから) ニシノオチバナ フネダスナ 言うて。
にしのかぜ【名詞】 西風 (志 (片田、御座、浜島)、鳥 (石鏡)、熊)

にしのかぜなおとしてきて 強い西風が吹いて来て
【会話】 沖い (に) いて (行つて) 風な (が) 吹いて
来て いっしょけんめ (一生懸命) どお (櫓) 漕んで
(漕いで) 家い (に) くんのん (来るのに) ニシノカ
ゼナオトシテキテ ほのめん (一生懸命に) になった。

にしばやて【名詞】 強い西風 (志 (布施田)、鳥) 【会
話】 西から 風な (が) ビュービュー吹いて来ると
ニシバヤテな (が) して来た。

にしぼとり【名詞】 夏の午後の熱気。熱射。

にしませ【名詞】 西南の風 (志、北、尾) 【会話】 やま
ぜの事を ニシマゼ言うのなあ。西とませ (南) と、
やませ言うて 他所の人ら言うけどなあ。

にしめ (煮染)【名詞】 1) 野菜の煮た物。 (志) 2) 汚
れた物 (志 (鵜方)、桑市、南) 【会話】 なあ (菜)
のニシメ、ごんぼ (牛蒡) のニシメ言うて。 しよい
(醤油) で さと (砂糖) や味醂入れて 味付けした
のおを (のを) ニシメや言うね (言うのです)。 しょ
んがつん (正月に) 御節料理するやんない (でしょ
う)。 あいなのおを (あんなのを) ニシメ言うのなあ
(のです)。 菜でも だいこ (大根) でも 醤油でし
て それだけ炊くの。 昔や (は) なあのニシメしよお
やんかれ (しましよう) 言うて昔や (は) さい (副
食) な (が) せわた (面倒臭いと)、 なあ (菜) 茹
でといて (ておいて) さいら (秋刀魚) ぜにぎり (丸
切り) してすると うまかりおって (美味かって)、
だいこ (大根) のにあいや なあのニシメ でも 結構
うまかりおった。 志摩の娘と ごんぼのニシメ、色は
黒ても 味がよい、言うて 志摩の娘は 海女しとる
もんで (しているの) 色が黒いやんない (でしょ
う) ごんぼも色な (が) くろういやんない、 そやけど
(それだが) 食べると 美味しいもんで (の)。

にしめのよおな【形容詞】 非常に汚れているさま
(志 (甲賀))

にしめもん【名詞】 1) 煮た料理、特に野菜 煮つけ
2) 汚れた物 (志 (片田))

にしゃ。にしゃこ【名詞】 理解が足りない 薄馬鹿
【会話】 ニシヤよ言うて なんも (なにも) 知らんも
んを (知らない者) ニシヤよ とおじんよ 言うて
あんごしのおを (馬鹿なのを) ニシヤ。

にしゃごろ【名詞】 馬鹿 (志)

にしゃどおち。にしゃどっち【名詞】 1) 理解が足りな

い 2) 薄馬鹿 養虫 【会話】 2) ニシヤドオッチ
(西はどちら) 言うのなあ (のです)。 養虫を ぶら
さがつとんの (下がっているのを) てえ (手) で ふ
つたても (ふつてやつても) きりきりつと回ると 又
元のとこい (所に) むいて (向つて) 来るやんない
(でしょう)。 そやもんで (それで) ニシヤドッチャ
(どちら) 言うて。 1) なんも (なにも) 知らんと (知
らないと) ニシヤ言うて、ニシヤコよ 言うの。

にじゅうかがり。にじゅうかご【名詞】 竹で編んだ籠の
一つ かがり 参照 【会話】 ニジウカゴを 腰か
ご 子供らの持つのを ちっちゃいのを (小さいの
を) ニジウカゴ

にじゅうさんちのさんやばば 二十三日は天気が悪く、
その雲に乗っていると言われる婆 (妖婆) (志 (布施
田)) 【会話】 ニジウサンニチノサンヤババ言うて、
二十三日ん (に) になると むら雲な (が) さがって来
て さんや婆言う人な (が) その むら雲い (に) 乗
ってくる言うて、二十三日は たいがい (大概) 天気
な (が) ええ (よい) 日は しやせん (しません)。

にじゅうさんちはふらねばくもる【俚諺】 二十三日は天
気が悪くなる やみ 参照 【会話】 ニジウサンチ
ハ フラネバクモル言うて さんち (三日) は ええ
(よい) 日な (が) しやせんのなあ (しません)。 旧
の二十三日になると 降らんでも (降らなくても) 曇
って むら雲な (が) 下がってくんね (来るのです)。

にじゅうだあら【名詞】 二重になった俵 たあら 参照
【会話】 粃や米やどき (などに) 入れるのは 藁でし
て きちんと編んで 米な (が) 漏れん (漏れない)
よおに ニジウダアラにして 裏側と 内側と二重
に

にじゅうばし (にちゅうばし)【名詞】 便所壺の上に板
が二枚渡して有るので 【会話】 せんちゃ (便所) の
踏板 ニジウバシや (です)。 どびよおし (櫓拍
子) でも せんちゃの (便所の) 踏板 二枚で もっ
とる (持っている) あいども こまいど よした (頑
張つて) 押せ 言うて。 便所で ずずつなぎ (数珠連
ぎ) ん (に) なろどたやんない (並んで居たでしょ
う)。 やい (おい) 昔みたよん (のように) ニジウ
バシなら 二人なろで (並んで) たれんのんなあ (す
るのに) 言うて。 昔や踏み板でニジウバシやもんで
(なので) おつきい (大きい) もんで (ので) ふたあ
り (二人) しても 出来よおったね (出来て居たので
す)。 兄弟な よけ (沢山) 有ると 便所一つやんない
(でしょう) そすと (すると) 待つとんの (て居る

のが えらいやんない (大変でしょう)、そすと ふたりいつ (二人づつ) もよて (連なって) 座りおったねんなあ (座って居たのです)。甕や (は) おつきいし (大きいし) 踏み板 なががい (長い) そやよって (だから) ふたあり (二人) 座っても 座られよおった (座れました)。

にじゅうはち【名詞】 十六ささげ 豆 みず 参照
[会話] ニジウハチ言う豆な (が) あんねやんかい (あるのです)。ひとひろ (一尋) んも (にも) なんねてや (なるのです)。そやけど (それだが) みい (実) な (が) いっとる (入っている) とこな (所) (が) あいな (間) (が) 開いて みいな (が) ちょこちょこと あんねてや、そやもんで (それだから) みい (実) より かす (殻) 食うた。

にじゅうまんと【名詞】 和服の上に着る男子用の外套
[会話] ひきまあしと とんびと とんびは ニジウマント ニジウマントはぼろかくし言うて 中い (に) ぼろ着とても (着ていても) ニジウマント着ると 判らせんやんない (判らないでしょう)。

にしよ【名詞】 二升

にしよかぶり【名詞】 再婚する女の人

にしよとわらう 嘲笑する。

にじりつける【他カ五】 なすりつける。押しつける。
(松、多、阿、張、尾)

にじる【動】【自ラ五】 座った格好で少しずつ動く 近寄る なすりつける (北)

にすい【形容詞】 鈍い おろかだ 下手だ (志 (布施田、鵜方、神明、立神、国府、安乗)、鳥 (加茂)、員、鈴市、鈴郡、津、久、一、多、上、阿、張、度、伊、北) [会話] 鈍い事を ニスイ。あやまあ (彼は) ちよいと (少し) 鈍い 言う人もあるし、ニスイなあ言う。仕事もちよいと ニスイなあ言うて、仕事な (が) とろくさいにげ (劣った人)、仕事 どんくさかったりすると ちよいと ニスイなあ 言うて。

にせもん【名詞】 贋作 偽物 実物に似せて作った物 本物によく似ている物 (桑市、伊) [会話] 嘘のもん (物) を。だましもん こさえ (作って) といて (おいて) ほんもん (本物) や (だ) 言うて 売ん (る) のなあ、ニセモン 掴かまされて言うて おおた そっくり やもんなあ (だから) 言うてなあ。

にせやまい【名詞】 偽せ病 病気でないのに病気をよそおう事 [会話] 病気や (で) ないのに 病気みたいな格好 しとるのも (しているの) 作り病、ニセヤマイ。

にせやん 似せない

にそくさんも【名詞】 二束三文 正当に評価されず安値で買い叩かれる事。二束で僅か三文の意 (広辞苑) (志 (布施田))

にたき【名詞】 煮炊き 食べ物を煮たり 炊いたりする事 炊事 (志 (布施田)) [会話] ニタキせな (しなければ) はざん (いけない)、ニタキや (は) おらげや (俺の家は) 婆さんな (が) すんね (するのだ) 言よおったけど (言うて居たが)。今しや (今は) 婆さん なんも (少しも) 煮物 さして (させて) もらわれやせんなあ (貰えません)。炊事の事を ニタキ、たらもと (台所) しもたり (片付けたり) 夕飯 炊いたり すんな (するのは) 年寄りの役 やったけど (だった)。

にだし (煮出)【名詞】 だし にしめ 参照 [会話] だいこ (大根) のにあい (煮たもの) だいこ を 千切りん (に) 切つといて (切っておいて) 水 よけ (あまり) 入れんと (入れずに)、醤油で 味付けて さいら (秋刀魚) の ぜにぎり (ぶつ切り) ニダシん (に) 入れてすると 美味いね (のです)。

にだし【名詞】 芋飯の中に入れる米 [会話] 芋ばっかや (ばかりだ) 言うて 水な (が) ひかせんもんで (なくならないので) 米をなあ 茶碗に一杯でも 真ん中い (へ) 入れると 水の (が) ひいて (無くなって) 飯の炊きよいん (やすい) やんかい (のです)。芋ばっかや 言うとな、汁 (水) な (が) じゃぼじゃぼしとて (していて) あわすと (こねると) 団子餅こねたよん (ように) なって、米はあこやみたよん (のように) めつつぼ (飯粒) な (が) ついてもな 芋い (に)。うまいねてや (美味しいのです)、一つうつ 付くだけでもなあ そやよって (それで) ニダシや (だ) 言うて、芋飯の中の 米粒 芋のニダシに 米を ちゃあのみ茶碗 (湯呑み茶碗) に一杯か 茶碗に一杯。

にたもん【名詞】 よく似た者、物。(志 (浜島))

にたもんどおし【名詞】 よく似た者仲間

にたらし【名詞】 薩摩芋を薄く切り少し乾燥させた後、煮て、さらに乾燥させたもの (志 (布施田)) [会話] 芋のニタラシ言うの (のです)。切り干しみたよん (のように) うっすう (薄く) 切つといて (切っておいて) ちよいと (少し) 一日か二日 ひい見せといて (太陽に当てて) せんと (しないと) くだけてくもんで (行くので) 一日か 二日 ひい 見せといて 炊いて 干したと (干してやると) それを ニタラシ。

炊かんと(炊かずに)干すと しらきりぼし言うて
せだ(布施田)の人ら(達は) そんで(それで) 飯
炊くけど 和具の人ら(達は) ニタラシん(に) しと
いて(しておいて) 炊きおったね(炊いて居たので
す)。ニタラシメシや(だ)言うて。しらきり干しの
飯や(は) ひなたくそ^そおて(臭くて) うまない(美味
くない)、せだの人らは 小豆入れて 炭酸入れて
きりぼしを 上手ん(に) 炊くねてや(炊くのです)。
そやけど(それだが) ひなたくさい^{わい}い(です)、し
らきりぼしは。和具の人ら しらきりぼしの飯は よ
け(あまり) 炊かせんけど(炊かないが)、ニタラシ
メシや(と)言うて ニタラシと^とつ^ついて(蓄えて)
芋な(生芋が) きれた(無くなった) 時ん(に) ニタ
ラシメシ 炊く^の(ののです)、南瓜や なんか
(色々) 入れて。芋な(が) 穫^つった^のな(のが) きれ
ると(無くなり)と 穫れるまで 食う家もあるし よ
け(沢山) 百姓の^{ない}家や(農作物を作らない家と
か) 家内のおおぜ(大勢)の家や(は) 六月、七月頃
ん(に) になると きれると(無くなると) その用意に
ニタラシを たあらい(俵に) 入れたり、吠い(に)
入れたりして かことて(囲って、蓄えて) 芋のあい
(ない間) つげめ(継ぎ目)に それ 食いおったの
(食べて居たのです)。

にたらしめし【**名詞**】にたらしを入れて炊いた飯 にた
らし参照(志)

にたりがい(にたりがひ)(似貝)【**名詞**】いがい(胎
貝)の異名 女陰に似ているところから イガイ科の
二枚貝、岩礁に細い糸を出して、附着する三角形また
は長卵形で長さ15cm、外面は黒褐色、内面は真珠色、
肉は春に美味。(志、鳥)【**会話**】ニタリガイ 言う
な ちげ、ほんとん(本当に) よお(よく) 似とんの
(似ています) そっくり やんなあ(です)、焼いて
ふわんと 口あかすと(開かすと) それと、えんどの
花。ぼぼのどしやね(女陰)と えんどの花は従兄縁
かよ よお(よく) 似とる 言うて。

にたりやいたり どうにでも 好きなように

にたりよったり(似たり寄ったり)【**形容詞**】どれも同
じで、たいして差のない事 大同小異 どっこいどっ
こい(志(布施田))【**会話**】ニタリヨツタリや
(だ)とか 言うて よお(よく) 似た ちょぼちょ
ぼみたよおな(のような) のおを(のを) あや(あ
れ) ふたんな(二人が) ニタリヨツタリや^れ(だ) 言
うて、よお 似た ちょいと(少し) こあんごし(薄
馬鹿) よおなのおを(のを) 言う^のな^あ(ののです)。

ちょいと もやしな 足らんのなあ(馬鹿なのを) ふ
たんな ちょぼちょぼやれ(だ)とか ニタリヨツタ
リや(だ)言うて。

にちあがり(満上がり)【**名詞**】満潮 あがる 物事が
出来上がる事 他の動詞の連用形の下について用いる
その動作が完了して物が綺麗に出来上がる事を表す。
その動作の結果や状態が極点に達する事を表す【**会**
話】ニチアガリ言うて 潮な(が) に^つて(満ち
て)来る。潮のはな^な (が) 来たんなあ(来た)言う
て、潮な(が) にち^かけて(満ちかけて) 来た^のお^を
(のを) 潮のはな^な (が) 来た^んど(来たのだ)言う
て、そすとまあ(そうすると) 一杯^ん(に) になると
ニチアガッタなあ言うて 潮な(が) 満ちて来た^のお^を
(のを) 言うねんなあ(言うのです)。そすと(そ
うすると) 潮な(が) にち(満ち) かけて来た時は
潮のはな^な (が) 来た言うて ちょいちょいつ(少し
ずつ) 波打ち際い(に) 泡立てて来ると まあこや
(これはこれは) 潮のはな^な (が) 来た^れ(来た)言
うて、それから だんだんと にち^て(満ちて) ニチ
ャガッタ^レ(た)言うて。ニチアガルと こんだ(今
度は) ひいてくの(干き潮になります)。

にちくち【**名詞**】潮の満ち始め みちあがり 参照
【**会話**】ちょいと(少し) 入れ潮(陸へ来る潮) な
(が) ニチクチの事を にちやがり(満潮) ん(に)
な^つて来た言うて、満潮^ざわ(始め)に 言うんやろ
なあ(言うのでしょうか)

にちしお【**名詞**】満ちて来る潮【**会話**】ニチシオ 言
う^な(のは) こ^つちやい(こちらへ、陸の方へ) 流れ
て 入^つて く^んのな^し(来るのです)。

にちてくる 満ちて来る。

にちひき(満干)【**名詞**】海が満ちたり干いたりする
事【**会話**】おしお言う^な(言うのは) 潮のニチヒ
キ 潮な(が) よお(よく) ひく時を

にちやがり【**名詞**】満潮【**会話**】潮のニチアガリ言う
て 満潮^ん(に) な^つて く^んのをな^あ(来るのを)
そこり^な(が) 来るとニチアガリ^ん(に) なる迄 は
な(先端) 来る言うて 波^な(が) ひいとたのおな
(干いていたのが) ちょいちょい(少しづつ) 寄^つて
くんね(来るのです)、しや(それ) 泡だ^つて 来た
ど(来たぞ) 潮のはな^な来た 言うて、ちょいと(少
し) 泡^な(が) 出^てくんね(来るのです) 満潮^ん
(に) な^つて そ^んな(それが) 一杯^ん(に) な^つった
時が。ニチアガリ

にちやがる 満潮の極に達する

にちやつく【自カ五】はなはだしく粘る 粘る (南、熊) [会話] ねちゃねちゃしとる (している)、ニチャツク言うね (言うのです)。なめって (粘って) 来て ねちゃねちゃしとられ (している) 言うて。こやまあ (これは) ちょいと (少し) 傷みかけやど (だ) ちょいと ねちゃねちゃ して来たたれ (来ました) 言うてなあ。

にちやにちや【副詞】物の粘るさま ニタ (爾多: 物の粘る様) を重ねる語。(阿、張、名)

にちる(満) 1) 満ちている みちる 満ちる 充ちる 主に空間的な物 抽象的な物によって空間が一杯になる。2) 満潮になる 潮が満ちる (志) [会話] 2) 潮が 満ちて来る事 ニチル 言うの (ののです)。にって来た まあ 早よ (早く) 行かな (なければ) にって 来たれ (来た) 言うてな。

につからかしたた 煮過ぎしてしまった。にからかす参照

につからかす 煮続ける [会話] 煮て 煮て ニッカラカス 言うてなあ 煮て煮て ま ニッカラカシテ こやれまあ (これ) こんがらかして (焦がして) 言うてな。

につかわし(似付)【形容詞】よく似合って居る。釣り合って居る。ふさわしい。

につき(にくき)【名詞】肉桂 につけに同じ (員、三、鈴郡、鈴市、一、伊賀地方、度、尾、熊) [会話] につけのきい (木)、ニッキ噛まして くれ (下さい) 言うて、このぐらい (10 cm) のちっさあい (小さい) ほっそい (細い) ねえ (根) を 束ねて有って 一銭で一束買うと 十本ぐらいつ (位) しばってあんね (束ねて有るのです)。どいらい (大変) ふつとい (太い) ねえ (根) は 五銭つも しよおったなあ (して居ました) いっぽ (一本) な (が)。

につきすい【名詞】肉桂を水に溶かした清涼飲料 (尾、上、阿) [会話] ニッキスイ 言いおったなあ (言っていました)。ビンに入れとて (入れていて)、ニッキスイこおて (買って) のおだ (飲んだ) 言うて。ちっちゃあい (小さい) ビンに はいっとなのおを (入っているのを) ニッケンスイや (だ) 言うてな。ちょいと につけん (肉桂) の 匂な (が) するぐらい はいっとうる (ている) だけで ニッケンスイや (だ) 言うて、赤やら 緑やら、色 付けといてなあ (ておいて)

につく【自カ五】似合う

につくりなあ【名詞】荷物を縛る時に用いる綺麗な縄

[会話] あきんどな (仲買人が) 籠 しばんのおも (縛るのも) なんすんのも (何するのも) 皆 なあ (縄) でしよおったねやんかい (して居たのです)。
ニツクリナア やったねんなあ (だったのです)。

につけ(煮付)【名詞】煮た魚 魚の煮た物 (志 (浜島)、北) [会話] 魚のニツケ 小魚でも 何でも 魚の煮たのを ニツケ言うて、塩したのおは (のは) 塩焼き言うし。野菜もん (物) でも 煮たのおを (のを) ニツケ こさえやんかれ (作りなさい) 言うて 煮しめんのを (るのを) ごんぼ (牛旁) や、人参を ニツケした汁で ニツケとかんかれ (ておきなさい) 言うて。ニツケの汁で炊くと 美味しいもんで (ので)。魚をニツケた後で ごんぼ (牛旁) や人参 ニツケよやんかれ (ましよう) 言うて。

につけ につき【名詞】肉桂 につけいの末尾母音の省略 訛 クスノキ科の常緑高木 樹皮は緑黒色、葉は対生し長さ7~12 cmの卵状披針形で三本の目立った葉脈が走る。夏、葉脈から長い花柄を伸ばし黄緑色の小花をつける。果実は、長楕円形で黒く熟す。樹皮根皮を乾燥したものを肉桂皮と言い健胃散や香料に用いる。
(北) [会話] ニツケ ニッケン 言うの (ののです)。きい (木) のねえ (根) を食うのなあ (食べるのです)。あっかい (赤い) 紅の紙で 真ん中 からげて (束ねて) ねえを 売つとりおったんなあ (売っていたのです)。正月ん (に) なったら ニッケン買うので ニッケンは 一銭で一束か 二銭で一束やもんで (なので) 買いいもんで (買い易いので) そればっか (ばかり) こおて (買って) 舐めとりおった (舐めていました) 安いもんで。そすと (そうすると) ぼくた (木太・幹) は たっこおて (高くて) 木ん (に) なつとんのおは (なっているのは) かあ (皮) を はあ (歯) で きしんのおを (齧るのを) そやまた (それは又) たっかいねてや (高いのです)。三銭や五銭位 しよおったんやろなあ (して居たのでしょう)。

につけすい(にくけすい)【名詞】肉桂の樹皮で作った肉桂水をうすめて赤や黄に染めた飲み物

につける(煮着)【他カ下一】煮る

につけん【名詞】につけに同じ

につけんすい【名詞】につけすいに同じ

につこりがお【名詞】笑顔 (志 (布施田)) [会話] 笑い顔、なんか (なにか) うれし事な (が) 有るよおな顔してなあ。につこりともせんと (せずに) しとんの (しているのを) ニッコリガオもせんと まあ あの人 しおしお、しとる (している) 人やなあ (だ) 言

うてな。

につすい【形容詞】鈍い、馬鹿だ。(桑市、松)

につた 満潮になった。

につちゅう(日中)【名詞】正午前後の二～三時間 [会話] ニツチュウ言うな(言うのは)暑い夏の時なあ(に)十二時から一時か二時まで まだニツチュウやなあ(だ)言うて。ニツチュウでも 畑い(へ) いとると(行っている)。ニツチュウモ サンチュウも言わんと(言わずに)畑い(へ) いて(行つて)言うて、昼休み十二時に 飯食うと 一時、二時まで 丁度 あつつい(暑い) 最中やわい(です)。その時ニツチュウサンチュウ言うて、こおぼし(穀類を日に当て湿気、害虫を除く)しても ニツチュウの内ん(に) 取り込まな(取り込まなければ)言うて、飯食うと 一時ん(に) になると あたたい(暑い) うちん(間に) 入れ込まな(取り込まなければ)言うて、ニツチュウ かんまえて(かまえていて) 入れんねもんで(入れるので) こおぼし すんの(するのは) つらましかりおった(苦痛でした) あつつうて(暑くて)。

につちゅうさんちゅう【名詞】につちゅうを強めた語 陽の最も照り付ける時間、特に夏に用いて最も陽射しの暑い時を表す。につちゅう参照

につちゅうさんちゅうもあるかれ。につちゅうもさんちゅうもない 非常に忙しい状態 [会話] ニツチュウモサンチュウモ 言わんと(言わずに) おら(俺は) 田の草 かい(て) (取つて) 言うてなあ。ニツチュウサンチュウ 言うな(のは) ま 一時や二時の事を 言うんやろん(言うのでしょう)、それを 休みもせんと(せずに)、田の草かいた(取った) 畑い(へ) 行たりして、ニツチュウモサンチュウモ アロカレ 言うて。一日中 飯 食う以外 やすどらせん(休んで居ない) 言うて、 昔や(は) どんだけでも(どれだけでも)、仕事せな(しなければ) 言うてなあ、ニツチュウモサンチュウモ アロカレ おらな(俺等)が 言うて、畑い(へ) 行たらなあ 飯 食う時ん(に) 座るだけで 飯も 噛み 噛み 立つねどお(のだ) ニツチュウモサンチュウモ やすどろかれ(休んでいない) 言うて。

につちよ【名詞】日曜 にちょうの訛(鈴市、伊賀地方) [会話] 今日は ニツチョ やよつて(だから) 早よ(早く) 来る 思たや(思ったら) かくのごとく(案の定) 早よ(早く) 来たなあ 言うて

につてきた 潮が満ちてきた [会話] まあ 潮な

(が) ニツテキタよつてん(から) 磯人(海女) も 上ったやろど(だろお) 言うてなあ。

につてくる 潮が満ちてくる 満潮になってくる [会話] 潮な(が) ニツテクル時 こみしおやど(だ) ニツテクル時を 潮のはな(先端) が来た

につと(につたう)(日当)【名詞】一日の労働に支拂られる賃金(一)

につとる 満潮である [会話] 潮な(が) につて来たれ(満ちて来た)。ニツトンネ(満ちているのだ) まだ 潮な(が) 干かんと(干かずに) おられ(いる)、潮な(が) 満ちて来た言うの(のを) につて来た。まだ ニツテ(満ちていて) 干かせんわれ(干かない) 言うて、潮な(が) 干かんと、ふのり(海藻) 摘みん(に) いたり(行ったり)、あまのり 採りん(に) いたり すんの(するの)に 島な(が) めえやせんもんで(見えないので) まだ ニツトル言うて。

につばい(日拝)(日牌)【名詞】毎日位牌の前でする供養 [会話] ニツパイ、ガツパイ言うの、寺の事やんかい(です)。飯あげんの(供えるのを) ニツパイガツパイ あげて(供えて) 言うてな。

につばいがつばい【名詞】毎日、又、毎月、日を決めて位牌の前でする供養

につめ【名詞】鮎につける調味料 醤油に味噌、砂糖を加え、とろみをつけたもの(志(布施田)) [会話] ニツメやどき(など) こつてり つけとけ(つけておけ) 言うやんかい(言います)。ニツメも 塗つて 鮎も食うと 旨いわい(美味しいです) 言うてな。男の人ら 甘いもんで(ので) 嫌らうけど(が) 甘いのおな(のが) 付いとると(ていると) 旨い。

につめる(煮詰)【他マ下一】水分の無くなる迄煮る。

にどぐい【名詞】同じ食事を二度食べる事。(南)

にどでま【名詞】同じ事を繰り返し行なう。無駄な動き。(志(布施田))

にどね(二度寝)【名詞】一度眠りから覚めて、又眠る事 [会話] ふたあくら(二度) 寝る、朝 早よ(早く) 起きて あんまり(あまり) 早すぎて 又 ニドネして 言うやんかい(言います)。ニドネしたや(したら) 寝たて(寝てしまつて) 言うて 朝 じょおし(漁師) 出して ニドネ ちょいと(少し) したや(したら) 寝過ごしたて(寝過ごしてしまつて) 言よおった(言つて居ました)。朝や(だ) のん(の)に 起きんならんあ(起きなければいけない) 思て(思つて) ちょいと 早いのに 寝よ(寝ましょう) 思て(思つて) 寝たるやんない(寝るでしょう)。そ

すと(そうすると)ニドネ 寝過ごしたて。

にない(になひ) **【担】【名詞】** 担い桶 飲料水を天秤棒で担いで運ぶ桶(志(布施田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、松、上、阿、伊、南、熊) [会話] 水 汲む ニナイ。たあご(担い桶)の代わり。たあごみたいな ねえけど(のような物だが)水汲む ニナイは ちょいと(少し)開いといて(てい)て形な(が) ちょいと ちごとる(違っている)。水 汲むだけん(に)して 他の事や(には) 使わせんけど(使わないが)。じょおし(漁師)は、餌 買う ニナイや(だ)言うて かと(鰹) 船な(が) 餌 買いうる時に 使うだけで 若い衆な(が) 血気のもんな(者が) 餌を、浦から運ぶんやんかい(運ぶのです)。前(前の浜・太平洋側) い(に) 船 浮けとるし(浮かべている) そすと(そうすると) 若いもんな(者が) 裸で 褌と腹巻き一つで 浦から ニナイえ 鰯を ぼてん(竹の生簀)から して(移して) 潮一杯入れとるねもんで(入れているので) いっしょけんめ(一生懸命)で走ると ばちゃばちゃと 道い(に) 鰯な(が) とんでくんけど(飛び出して行くが) そいなもん(そんなもの) 拾うところかな(拾っていません) 裸足で 裸で 浦から里の浜い(へ)まで 担てくね(担って行くのです)。若いしゅ(衆)の、脂ののつとる(のっている) のおらな(者が) ぼたぼた言うて たんごろこすと(あふれさせると) 鰯な(が) 道い(に) こやってして(こうやって・落ちて) それ 拾いに 行きおったの(行って居たのです)。餌買いの走った後を。

にないおけ(になひをけ) **【担桶】【名詞】** にないに同じ 水汲み桶(志、南、熊) [会話] ニナイ そや(それは) 水 汲むのんなあ(のに) 昔や(は) 皆 ニナイで になよおったやんない(担なつたでしょう)。今日 日や(此の頃は) 担うもな(物は) なんも 無いね(無いのです)。かとぶね(鰹舟) な(が) 出て 餌をなあ ぼてん(生簀) え いっつとんのを(入っているのを) ニナイオケエ 移して 浦からなあ 前の浜いもて(持って) 来て その舟い(へ) 入れんのな あ(入れるのです) わかいしゅ(若い衆) な(が) 裸で跣で褌一つでなあ、浦から ニナイオケエ 潮入れて 担のて(担なつて) 来ると 一杯 入れとんの(入れているのを) ばちゃばちゃして溢れて 道いな あ 皆 こぼして くんね(来るのです)。

にないつじ(になひつじ) **【名詞】** 頭髮中のつむじが二つ並んであること 又、そのつむじ(南) [会話] ニ

ナイツジ言うな(のは) 頭ん(に) 二つ一緒ん なら
どんの(並んで居るのを) あや(あれは) ニナイツ
ジやなあ(だ) 言うて。

にないふご **【名詞】** 物を入れ天秤棒で担って運ぶ畚 [会話] ふごは ばたふごと さらふごと ニナイフ
ゴ 芋 持ったり(運んだり) すんのを(するのを)
ニナイフゴ。

にないぼ(になひぼ) **【担棒】【名詞】** 天秤棒 ぼうの末尾母音の省略(志(布施田、片田、浜島)、安) [会話] おく(天秤棒)の事、ニナイボ。○○○な(が) ××婆な(が) ぼてして(担い売りして) 稼んだ(稼いだ) ぜん(銭)を ぬすで(盗んで) 酒のおだると(飲んでやると)、このくそ爺 又 やりやがった 言うて そのぼて(担い売り) するおく(天秤棒)でどやされんねてわい(撲られるそうです)。そすと(そうすると) 奥の手でやられた言うて おく(天秤棒)で どばされて(叩かれて) 奥の手でやられた言うて。

になう(担う) **【他ワ五】** 物を天秤棒で運ぶ 物を担ぐ(志(布施田)、鈴市、多、伊、北、尾、南) [会話] ニナウ 水 ニナウ。肩い(へ)掛けて 天秤棒で かずくのおな(のを) ニナウ 言うの(のです)。こえ(肥料) ニナウとか、水 ニナウとか かずく(担ぐ) 事を ニナウ言うの。そやよって(それだから) ない 言うね(のです)。

になえ **【名詞】** 水汲み桶 にないに同じ(志(片田)、南) [会話] ニナエ 言うの。桶をなあ ニナエン(に) 一杯つ 水も おた いかついなあ(強いなあ) どんどろこす(あふれる)程、担のて(担なつて) 来たない 言うてな。ニナエ や(だ) 言うて。

ににする 苦にする。重く感じる。責任を感じ苦痛に思う。(員)

にねんしえ。にねんしょ **【名詞】** 二年生(北) [会話] がっこ(学校) ニネンシエ 四年より 行かせんねよ って(行かないのだから) にねんせ 言うとまあ はんぶ(半分) や(です) 四年で 終わんねよってんなあ(終るのだから)

にのお(にのう) **【他五】** 担なう。かつぐ。(志、伊賀地方、北、南、熊)

にのとる 1) 担っている かついで居る(志) 2) 嫁が婿より年上で有る。[会話] 1) ニノトシネ(ているのだ)、あのかあ(子は) つじ(施毛) な(が) にないつじで じっばん(立派に) ニノトル言うて、にないつじの こお(子) な(が) 真っ直ぐん(に) なつ

て ニノトシノヲ (ているのを)。そして 左い
(に) かたんどると (傾いていると) 度胸な (が) あ
んねてわれ (有るそうだ) 言うて、度胸もん (者) や
(だ) 言うて。

にはいず【名詞】 すだまり 酢と醤油を合せた調味料
[会話] 三杯酢 ニハイズ すだまりの事 ニハイズ。

にばん (二番)【名詞】 鯉船でへのりの次に位置する上
手な者 (三重県全域)

にばんえさ【名詞】 最初積んだ餌を使い切り、二度目に
積む餌。大漁。[会話] ニバンエサ ニバンエサイ
(に) 来たね (来たのだ) 言うて、昔や (は) 鯉 朝
早よ (早く) 出てくやんない (出て行くでしょう)。
そすと (そうすると) 大漁のひい (日) は 餌 皆
つこたて (使ってしまった) ニバンエサイ (に) 来た
言う日な (が) ありおったね (有ったのです)。ニバ
ンエサん (に) 来たんでなあ (来たそうだ) 言うて、
引き網の鰯を 引き網な (が) 引いて (採って) 来る
と ぼてん (竹製の生簀) で いけてあんね (活かし
てあるのです)。今しゃ、こわり (木枠と網で作った
生簀) な (が) あるけど、昔や (は) こわりな (が)
無いもんで (ので) ぼてんへ 皆 活けおったねやん
かい (活けて居たのです)。そすと (そうすると) そ
の ぼてんへ 活けてあんのを (あるのを) たま
(網) で掬って にない入れて にのて来といて (来
ておいて) ニバンエサ 行く 言うて。

にばんえさいく。にばんえさいた 大漁で釣った魚を水
揚げして、すぐまた、出漁すること [会話] 今日は
大漁で、浜揚げしといて (しておいて)、直ぐん (に)、
ニバンエサイ (に)、イタ、言うて、ふたくらめ (二
度目)、行くのを、にばんえさや (だ) 言うて。餌
積んで、鯉は、浜い揚げといて (ておいて)、沖な
(が) ちっかいもんで (近いので)、ニバンエサイ
(へ) イタ、言うて

にばんぐち【名詞】 次の番であること 次 [会話] ニ
バングチ。てぐさ (天草) の ニバングチ、しんがつ
ついたち (四月一日) の あらぐち (新口) な (が)
あいて (解禁になって)、じんじん (祭) な (が) 済
むと じんじん (神事) の二日に ニバングチな
(が) よお (よく) あくねてや (解禁になるのです)
てんぐさ (天草) だけやなしん (で無くて) ふたくら
め (二度目) あくな (あくのが) ニバングチなあ 一
番ののおは (のは) あらぐち (新口)。今度 ふたく
らめ (二度目) あくな (あくのが) ニバングチ。

にばんせんじ【名詞】 同じ事を二度繰り返す事。あまり

効果が無い。

にばんだれ【名詞】 次男、次妹、二番目の子供。三番目
はさんばんだれ。以下同じ。(志 (布施田))

にばんで (二番手) 次 順番が次である事 物事が少し
劣る事 [会話] なん (に) でもだ 一番済んで 次
ののおは (のは) ニバンデやなあ (です)。

にばんどこ【名詞】 畑の耕作する土の下部にあたる所
[会話] ニバندوق言うて 地床の上へ がら (塊)
やっといて (敷いて) その上い (に) 作り土言うて細
かい (小さい) 堆肥のある土を 上い (へ) 皆 こば
よおったの (敷きました)。

にばんどり (二番鵜)【名詞】 先の人の意見を横取りし
て同じ事を言う人 (志 (布施田)、度) [会話] ニバ
ンドリ言うて にげ (人間) でも 人の言うた (言っ
た) 後つけて、あとまねすると あや (彼は) ニバン
ドリや (だ) 言うて 真似するにげな (人間が) ある
やんかい (あります)。人な (が) 言うたのおを (の
を) 又 受け売りみたよん (のように) して すると
あや (彼は) ニバンドリや (だ) 言うて。

にひやくとおか (にひやくとをか) (二百十日)【名詞】
類の一方がくぼみ 他方が張っている人 にやくとお
か参照

にぶい【形容詞】 1) 馬鹿 劣る 2) 切れ味が悪い。
[会話] 1) ニブイなあ 仕事な (が) 言うのかい (で
すか)。あやなあ (彼は) ちょいと (少し) ニブイな
あ 言うて。ひよ (日雇い・一日賃金) 貰うよおん
(に) になると、賃 こぎや (こげば・値切れば) みい
こぎる言うて ひよな (が) 安い言うてしても (言っ
ても) 仕事な (が) ニブイもな (者は) 賃もニブイ
言うて 言われるなあ (言われます)。賃こぎや 身
こぎる 言うて、賃をよけ (多く) もらお (貰おう)
思たや (思ったら) みい (身) を よけ 働かな (働
かなければ) はざん (駄目だ) 言うて ひよどり (日
雇い) のにげ (人間) は。1) 頭もなあニブイ、人のす
る事 人並ん (に) よおせん (できない) ニブイや
わい (のです)。

にぶる (鈍)【自ラ五】 躊躇する 渋る [会話] する
事を したない (したくない) 思ても (思っても) す
るのな (のが) あるやんかい (あります)。したなさ
そおん (したくなさそうに) して。そしてまあ あの
人も 年取ったよつて (から) 仕事も ニブツナア
(鈍った) 言うて。そげん (そんなに) 言うわい (言
います)、えらかったけど (よくできたが) ニブツナ
ア 言うて。

にべ【**名詞**】ほんにべ ニベ科の海魚 全長約 80 cm。

体型はいしもちに似るが、背鰭は棘部と、軟条部がくぼみを持って連続する。体色は灰色で、体側に淡い黒色の点列が有る。下顎は上顎より僅かに短い。(南)

にぼし (煮干)【**名詞**】小さな鰯を煮て干したものだしに使用する(志(布施田)) [会話] ニボシ言うて鰯のちっちゃあいのおを(小さいのを)煮て干したのおを(のを) だしん(に) すんのなあ(するのです)。ニボシや(だ)言うて、だしに しよおったけど(して居たが)、あれは ええけどなあ(よろしいが)。だしな(が) よお(よく)出るけど あや(あれは)だし出すと 揚げて ほったるけど(放ってやるが)今 しゃ(は) カルシウムやよって(だから) くやええ(食べればよい)言うて食う人らもあるけど。

にほんびし【**名詞**】鰯の先が二本になっているもの ひし 参照 [会話] ニホンビシ。今しゃ(今は)皆ニホンビシでなあ。昔や(は) さんぼんびし(三本びし) しほんびし(四本びし) 使よおったけど(使って居たが)今しゃ てつぽびし(鉄砲びし) やもんで(なので)ニホンビシ 先が 二つん(に) 割れとんの(でいるのです)。

にほんぼ (二本棒)【**名詞**】両側の鼻孔から青洩を垂らしていること 又、その人 低能児 [会話] 洩 ごとばな(青洩) ごとちゃんや(です)ニホンボ言うのは。ロウソク ごとちゃんや(です)。今し(今) ごとちゃん垂らしとんの(垂らしているのを) 見やせんもんなあ(見ません)。出やせんねやかなあ(出ないのでしょうか)。出んねけど(出るのだが)昔みたよ おん(のように) 垂らしとらせんね(垂らしていないのです)。皆 紙 持ちや歩いとるよって(持ち歩いているから)。昔や(は)紙も なんも(全く) 持つねないし(持つのでなくて)洩 垂らし放題で きもん(着物)の袖で 合羽んなって(干からびて) 光とりおったやんかい(光っていました)。

にまめ (煮豆)【**名詞**】大豆と人参、牛蒡、蓮根等を小さく切り煮たもの 正月料理 [会話] ニマメ 豆炊いて 味つけんの(付けるのを)、しょんがつ(正月)ニマメや(だ)言うて、色変え 品変え するやんかい(します・するで有りませんか)。しいろいろ(白い)の炊き、あっかい(赤い)の炊き。豆で炊くの(のです)ニマメ言うて。さとばっか(砂糖ばかり)で 味つけんのも(つけるのも)あるし 醤油ちよいと(少し) 落として(入れて) つけんのも(つけるのも)あるし、いくたて(幾通り)も こさえる

わい(作ります)。昔や(は)人参や ごんぼ(牛蒡)や こんにやくをニマメん(の) 中い(に) 入れおった(入れて居ました)。今し(今)のものなあ(物は)それだけ、あっかい(赤い)金時豆や しいろい(白い)豆を 別々ん(に)炊くけど 昔や(は) ごんぼ(牛蒡)や 人参や こんにやくや、れえこん(蓮根)や 言うて 入れて ニマメしよおった(して居ました)。れえこんは 蓮根 れんこん言うて撥ねやせんね(撥ねません)。

にみそ (煮味噌)【**名詞**】野菜や魚分類を入れ味付けして炊いた味噌 副食にする みそざい 参照(志(布施田、鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)) [会話] ニミソん(に) すや(すれば)美味いけど ちよいと(少し)炊いたると(てやると)又 味な(が) 違うんけどなあ(違うのだけれども)。

にもちかいもち 荷物の多い事(志(布施田)) [会話] ニモチカイモチ言うて どつさり(沢山)荷物を 肩いも(へも) 負いね、てえ(手) いも(へも)持って荷物な(が) おい(多い)事。

にもん【**名詞**】煮物(志(浜島)) [会話] ニモン言うて なんやかや(いろいろ)煮たてるもん(物)を、ニモンも しといてけよお(してお)言うて、なんでも 煮たもんを ニモン。

にやあ【**名詞**】猫 幼児語

にやい (にあい、にあひ)【**形容詞**】【**名詞**】似合う ニヤイの夫婦 [会話] よお(よく) によとんのおを(似ているのを)ニヤイやなあ(だ)言うて 二つ一緒ん(の) のおな(のが)有ると おおた よお によとんなあ(似あっている)ニヤイやなあ(だ) なあ言うて ニヤイの夫婦や(だ)言うて。

にやい (にあひ)【**名詞**】野菜を茹で味噌で合えた物[会話] だいこ(大根)のニヤイとか なあ(菜)の ひたし(したし)とか、ニヤイとか、なあ(菜)でも、なあ ばっか(ばかり)入れて だしこ(削り節)と すんのを、なあ(菜)の ニヤイしたてやら(とか)にあえ 言うのを ニアイ ニヤイ や(だ)言うて。

にやいくさる よく似て居る。[会話] ニヤイクサツラレ(でいる)、のおに(お前に) こや(これは)言うてなあ、わり(悪るい) のおと(のと) ええ(よい)のと するやんない(でしよう)。そすと こんで(これで) のおは(お前)ニヤイクサツラレ言うて によとられ(似合っている)言うの、ニヤイクサル言うの(のです)。ものすごい(大変) よお(よく) によとんのを なあ(似合っているのを)ニヤイク

サル 言うて。

にやう【自ワ五】よく似合う よく適合する にあう
(似合)の転訛(志(浜島)、上、阿、北、南)

にやかされた 撲られた

にやかしてく 急いで行く [会話] とんぼの尻切って
麦藁さして何処やら(かへ)ニヤカシテク言うて、行
ききった(きった)事言うの(言うのです)。姿見
せん(見せない) よお なつてくの(なつて行くの
を) なあ(です) 行ききった 尻切れとんぼや
(だ) 言うてなあ。

にやかす 1) 煮る 2) 拳骨で殴る [会話] 1) ニヤ
カス言うな(言うのは) 煮る言うのを ニヤカシタラ
ナ(てやらなければ) はざん(駄目だ) まだ えご
と(完全に)ニヤカシタレヨオ言うて、よお(よく)
炊いたれ(炊いてやれ) 言うのなあ。えごと ニヤカ
セヨオ 言うの。2) 拳骨で ニヤカス 言うて さら
いげんこつで やられた 言うね(言うのです)。さ
らいげんこつ言うのなあ(言うのは) こして(こう
して) 開けといて(開いておいて) こんと こつの。
さらい(熊手) みたよん(のように) しとるやんない
(しているでしょう)。さらいげんこつは痛ない(痛
くない)。

にやがっとる 1) 盛り上っている、騒いで居る 2)
煮えあがって居る。[会話] 1) 祭やどけでも(などで
も) おおぜ(大勢) おって(居て) しとると(してい
ると) ものすごお(物凄く) 賑よとると(賑わってい
ると) あやれ(あれ) ニヤガツトル 言うてな、盛り
上がつとんのを(ているのを) 言うんやろなあ(言う
のでしょう)。

にやがる【自ラ五】完全に煮える 煮えて沸騰する に
えあがる 参照 [会話] ニヤガッテ来たよって(か
ら) 蓋とんど(取るぞ) 煮えこぼれるよって(から)
蓋とっけ(取っておけ)

にやくとうか【名詞】一方の頬がへこみ、反対側の頬が
張っている人 [会話] 昔は 田植えな(が) おっそ
いもんで(遅いので) 二百十日頃ん(に) 丁度 出た
ほお(穂) と、出やん(出ない) ほお(穂) と 半々
(半分宛) みたよおん(のように) しとるもんで(し
ているので) 出た頬と 出やん(出ない) 頬 あい
な(あんな) 人 見るとニヒヤクトオカやなあ(だ)
言うて。

にやくや【副詞】あいまいで煮えきらないさま ぐすぐ
す ふんぎり 参照 [会話] ふんぎり つけな(付
けなければ) はざんわれ(駄目だ)、ニヤクヤと よ

お(よく) きりもつけんと(つけずに) たいがいにし
て ふんぎり(決断) つけな(つけなければ) 言うて
似たよおな事ばつか(ばかり) 言うたり したり し
とると(していると)。

にやげ【名詞】煮た物 [会話] 芋のニヤゲ するやろ
(でしょう)。煮えとらせんのを(煮えていないの
を) ごじや(と) 言うの(のです)。

にやげる(煮上)【他ガ下一】煮あげる 炊きあげる
完全に煮る(志(布施田、鵜方、神明、立神、志
島)) [会話] 芋のにやげ(煮上げ) いもんにやげ
や(だ) 言うね(言うのです)。いもんにやげして
隣いも(へも) はよ(早く) まげもん 一杯 もてけ
(持って行け) 言うて、昔や(は) よれでもなあ(沢
山有っても) あたたいの(熱いのを) 炊くとなあ、ほ
や(それ) ぬくたいの(熱いの) 炊いた 隣い(へ)
も まげもん 一杯 もてて(持って行って) 置いて
来い 言うてなあ、ニヤゲルは 炊きあげる にやげ
て 芋 にやげた 言うて。

にやす(煮)【他サ五】煮る(津、張、度、北) [会話]
まあ こや(これは) にえてたない(煮えて行った)
言うてなあ。ひなて(日の当たる所) い(に) 置いと
くとなあ(ておくと) おおた こや(これは) ニヤス
ねない そやれ(それ) 魚も こいな(こんな) とこ
い(所に) 置いて 言うてなあ。

にやす 似せる まねをする [会話] 似せる 真似す
る、こいい(に) まあ ニヤサナ(似ささなければ)
はざんわれ(駄目だ) 言うてな 同じよん(ように)
せな(しなければ) はざんわれ 言うの(のです)。

にやす【他サ五】撲る(鳥、飯)

にやせん 煮ない

にやせん 似ていない [会話] 似て居ない あの兄弟
一つも(少しも) にとらせん(似ていない) 言うの
ニヤセンな あの家ん(に) ニヤセンなあ言うの(の
です)。よお(よく) にとんのな(似ているが) 有る
んなあ(有ります)。兄弟や(だ) 言うのな(が) ほ
んとん(本当に) 判りきつとんのな(きつているの
が) 有るやんかい(有ります)、そやけど(しかし)
なんも(少しも) ニヤセンのな(のが) 有つてなあ。

にやつく【自カ五】腹に鈍痛があり、気持が悪い。
(熊)

にやな 1) 似なければ 2) 煮なければ

にやにやする 腹に鈍痛が有る。にやつく(熊)

にやにやする 1) ひとり笑いをする。2) 嘲笑いをす
る。

にやわし (似合) 【形容詞】にあわしい。につかわしい。
よく似合う。

にやわん 似合わない ふさわしくない [会話] うまい事 (上手に) 出来とらへん (出来ていない) ニヤワ
ン事しとると (している)

にやん 似ない。

にやんこ 【名詞】猫 幼児語 (張)

にやんにやん 嘔む事 幼児語 (志 (布施田))

にゆうめん (にうめん) 【名詞】煮麺 素麺を煮込んだ料理 (志 (布施田)) [会話] ニュウメン言うな (言うのは) したじ (下味・出し汁) こさえて (作って) 葱やなんかを入れて 素麺入れて したじと一緒に (に) 炊いたんの (炊いてやるのを) ニュウメン。そして ゆどうめん言うな (言うのは) 湯 沸かし (といて (沸かしておいて) 湯い (に) 漬け (といて (漬けておいて) したじ (つけ汁) は したじでつけて食うの なあ (のを) ゆどうめん。ニュウメン言うな (言うのは) したじ こさえて (作って) したじん (に) ちい (に) うちこんだんの (投げ入れるの) それは ニュウメン。

によい 1) 匂 (志 (甲賀)、鳥 (加茂)、員、三、鈴市、鈴郡、松、多、伊賀地方、度、伊、北、尾) 2) 煮るのに容易だ 3) 真似しやすい [会話] 1) かざ ニオイ かざな (が) わりなあ (悪るい) 言うて。

によふ 【自ラ五】似合う 適合する ふさわしい

によふ 匂う 匂いがする (伊賀地方、北) [会話] かざ (匂) な (が) する 言うのを ニョウ、隣は 煮付け 炊いとるかして (と見えて) がい (大変) な (が) ニョテ来た、匂な して来たれ言うてなあ。かざ な して 来ると、かざ かんどてなあ (嗅いでいて) こやまあ (これは) 今日は 肉 炊いとるかして えらい (大変) 肉のかざなすられ (する) おもてなあ (思つて)。

によおによお (によように) 【名詞】読経 (志 (布施田)) [会話] お経の事、おっさん (和尚さま) に ニョオニョオ言うてもろて (言つて貰つて)。おっさん に ニョオニョオ言うてもらや (貰えば) ええわれ (よろしい) 年忌や言うたてて (言つても) 言うて。お経の事 ニョオニョオ言う (言います)。念仏の婆さんら (達) ちんちん申してもろて (貰らつて) ニョオニョオ言うてもらや ええわれ 言うて、ニョオニョオやて (です)。

によおば (にようば) (女房) 【名詞】妻 (志 (鶴方))

[会話] ニョオボ 奥さん かか 嫁さん

によきによき 【副詞】あちらこちらに数多く下より生えている様 芽を出して居る様 (志 (布施田))

によこつと 突然に によっこり参照 (志 (布施田))

によた 似合っている [会話] よお (よく) ニョタ夫 婦やなあ (だ) 言うやんかい (言います) にやう 言うな (のは) つりやい (釣合) な (が) 取れとる (ている) 言うの (のです)。

によた 匂っている [会話] ニョテキタ言うて かざ (匂) な (が) して来た ニョタ言うのも一緒の事や わいなあ (です) そすと 彼氏や (とか) 彼女ん (に) なつとんのもなあ (なっているのも) あやまあ (あれは) ニョテ (匂って) 来たどお (来たぞ) あや (あれは) ちよいと (少し) 匂な (が) すんなあ (するなあ) 言うて。

によつきり 【副詞】独り高く聳えるさま

によっこり 【副詞】だしぬけに 突然 [会話] ニョッコリ 出て来たない (出て来た) 言うて、によこつとして来たなあ言うの (言うのです)。筈でも ちよいと (少し) 出て来たどこ (所) ニョッコリ 出て来たない (来た) こわれ (これ) 言うたり、にげ (人間) でも ひよつと来ると、ニョッコリ やつて来たない 言うて。ちよいと (少し・突然) 出て来たのおを (のを) ニョッコリや (だ) 言うて。ニョッコリ来たとかによぼんと して来たとか ちよいと 出て来たのおと (のと)、突然、ニョッコリやつて来たない そや (それ) 言うて。

によつば 【名詞】1) 背の高い人 2) 馬鹿 [会話] 2) うとい (鈍い) のおを (のを) ニョッポや (だ) 言うんやわい (言うのです)。うとつと (ぼんやり) しとる (している) にげやなあ (人間は) ニョッポよ言うてな、ぼんやり しとんのを (しているのを) ニョッポやどお (だぞ) あやまあ (彼は) 言うて、がいに (あまり) 才智な (が) 無いにげ (人間) を ニョッポやなあ (だ) 言うて。1) せえ (背) な (が) たつかい (高い) 人も ニョッポ 言うやんかい (言います) せえたかニョッポ 言うてなあ ニョッポ言うねやんかい (言うのです)。

によつぽん 【副詞】だしぬけに 突然 によっこりと同じ [会話] ニョッボンと して来た 突然やつて来た。

によて 1) 匂って 2) 似合つて

によとる 1) 匂っている 2) 似合っている [会話]

2) この柄 あんたん (あなたに)、よお (よく) むい

とるやんかい (むいています) 言うて よお ニヨトル事を。

にらまえる (にらまへる) 【他ハ下一】 睨む。ニラむ (睨) の延 (大言海)

にらみあう (にらみあひ) 【自ワ五】 互に睨む。喧嘩する。

にらみやい 【名詞】 喧嘩。にらみあいの訛。

にらめこ 【名詞】 子供の遊び 二人向き合い睨み合い、顔面の表情で相手を笑わせて勝負する [会話] ニラメコ しよおか (しましう) 言うて ニラメコ すんの (するのを) ねがみやい言うね (言います)。ねがみやいしよおや (しましうか) 言うね (言うのです)。あの人な (が) ねがめておこしたよお (よこした) 言うて 睨む言うのを ねがめておこした (よこした)。見つめておこすと (よこすと) ねがめとる (ている) 言うの (言うのです)。

にらめる 【他下一】 睨む ニラミル (睨んで見る) の転 (鳥 (答志)) [会話] にがめ (睨み) つけて おこしたね (よこしたのだ)、ニラメル言うの (のを) ねがめる言うね (言うのです)、ねがめつけられたよお言うてなあ。憎い人見ると じろっと白目で ねがめてなあ (睨んで) 睨らんでおこした (よこした) 言うのをなあ ねがめて おこした。

にわ (には) (庭) 【名詞】 家の入り口 台所など屋内にある土間 敷地内に設けた空間 (鳥 (鳥羽)、鈴市、安、松、多、伊、尾、南) [会話] ニワ 入って来るとこ (所) ニワや (だ) 言うの (のです)。おつきい (大きい) ニワは オニワ (大庭)、コニワ (小庭) 言うて ちっちゃい (小さい) ニワは。

にわいし (にはいし) (庭石) 【名詞】 造園の為、庭に置く石。

にわか (俄) 【名詞】 1) 即興的に演ずる滑稽な寸劇 (志 (布施田)、張) 2) 突然 [会話] 2) ニワカ言うな (言うのは) 突然に来たのおを (のを)。雨もざあっと 降って来ると ニワカアメ。1) 芸でも ちよいと (少し) すぐん (に) すん (する) のを ニワカ。2) ニワカダキで うまないわれ (美味くない) 言うて、飯でも、米かして すぐん (に) 炊くと 芯な (が) あるよおん (に) しとるわい (しています)。そやよって (それだから) 飯でも ニワカ炊きかして (と見えて) こちこしとられ (している) 言うて。

にわかだき 【名詞】 急いで炊く事 焚く事 [会話] ニワカダキ 言うな (のは) 早よ (早く) 炊かな (炊かなければ) はざん (いけない) 思て (思って) 火 き

つつう (強く) して たっからかすやんな (強く焚くでしょう)、そんな (それが) ニワカダキ 言うのな あ (言うのです)。一から (始めから) しまい (終り) 迄 ぼおぼおと たっからかしてすると ニワカダキしたのおは (のは) うまないなあ (美味くない) 言うわい (言います)。

にわぎ (にはぎ) (庭木) 【名詞】 屋敷内に植えて有る木。

にわさき (にはさき) (庭前) 【名詞】 室の前の庭。

(志、鈴市、安、伊賀地方) [会話] 庭の ひよいと出たとこ (所) を ニワサキ 言うのな あ (です)。

にわとりのあさがかり 朝 鶏があちらこちらで 刻を告げる事 又、交尾すること [会話] ニワトリノアサガカリ 言うのは、朝ん (に) になると どっこも (何処も) 此処も 鳴くやんかい (鳴きます) けけこけけこ 言うて、朝方ん (に) になると いきって (元気づいて) 来て アサガカリやれ (だ) 言うてな、よお (よく) さかる (交尾する) やんかい (です) 朝ん (に) になると。それを アサガカリ 言うのな あ (です) この時ん (に) 交尾しとるわけや (しているのです) うとといてなあ (鳴いておいて) アサガカリ言うてなあ。

にわのたてうすありなひく 【俚諺】 ほら吹きを言う語 [会話] おおきな事言うにげ (人間) あや (彼は) だばら吹きや (だ) 言うて、ニワノタテウス アリナヒク言うて 蟻な (が) たて曰 よお 引くやてかい (引けるものですか)。

にんがい 【形容詞】 苦い 苦いの訛 (一、松、多、度、北) [用例] ニンガイ菓や (だ)。

にんがつ 【名詞】 二月 にがつの訛 (志 (布施田)、鳥 (加茂)、三、四、一、伊賀地方、北) [会話] しよおニンガツ (正、二月) は 西の風 にさん (二、三) しらめ (風) は しご (四、五) の蚕 ろくひち (六、七) かあ (蚊) の、はつく (八、九) ばい (蠅) 言うてなあ 西の風な (が) 吹くやんない (でしょう) しよんがつ (正月) や、ニンガツは、そすとしんがつ (四月) や 五月ん (に) になると なあ 蚕な (が) えらい (大変) もんで (なので) 蚕のしんがつ (四月) 蚊の五月、六月や七月は かあ (蚊) な (が) えろおて (大変で) 八月、九月ん (に) になるとはつくばい言うて秋蠅で はい (蠅) な (が) えろおて (大変で)。

にんきもん 【名詞】 人々によい感情を与えて、もてはやされる人 世間一般に人気のある人 人気者 [会話] 人気者 どいらい (大変) あのひた (人は) 偉い人

やなあ (だ) とか、人気な (が) 有る人を、器量な (が) ええとか (よいとか)、歌な (が) 上手な (だ) とか 言うて まあ どいらい 人気な (が) ええねよお (よいのだ) 言うて、なんでも (何でも) よお (よく) 出来る人を ニンキモンやなあ (だ) 言うてなあ。

にんぎょ (人魚) 【名詞】 上半身が女身で、下半身は魚の形をした想像上の生物

にんぎょ 【名詞】 人形 紙 土 木などで人の形に作ったもの にんぎょうの末尾母音省略 (志 (鶴方、神明、立神、国府、安乗)、鳥 (坂手)、員、三、鈴市、鈴郡、上、伊、北)

にんぎょのいおくとる 【俚諺】 老人が若々しく長生きして居る。(志 (布施田))

にんげ 【名詞】 人間 (志 (浜島、鶴方)、多、度、伊、北、南)

にんげなかしこい 世渡りが上手だ。如才が無い。敵を作らない。(志 (鶴方))

にんごお 二合 (志、北)

にんじ 【名詞】 虹 (志 (御座、片田、鶴方、神明、立神、国府、安乗)、鳥 (坂手)、鈴市、一、久、松、多、度、伊、南) 【会話】 虹も ニンジな (が) 立った 言うて、虹を ニンジや (と) 言よおったなあ (言っていました)。虹な (が) 立った言うのを、ニンジな (が) 立った。ニンジな (が) しょんべ (小便) 垂れておこする (よこす) 言うて、虹な (が) 立つと ばらばらと雨な (が) 降る時な (が) あるやんない (あるでしょう)。ニンジの しょんべや (だ) 言うて 言よおったの (言って居たのです)。

にんじ 【名詞】 人參 (志 (鶴方、神明、立神、安乗)、鳥 (神島)、桑市、鈴市、鈴郡、安、津、一、松、多) 【会話】 ニンジ 人參もられて 言うて 人な (が) おだてに乗ると 人參もられて あやれ (あれ) 言うて、人な (が) お前 偉いとか、すんな (するの) が 上手ななあ (だ) とか 言うて それい (に) 調子ん (に) のると、あや (彼は) 人參もられて のつとられ (のっている)。

にんじつ 【名詞】 忍術 にんじゅつの詭 (多、北) 【会話】 ニンジツつこて (使って) どろん言うて 子供の時分にや (は) よお (よく) しょおった (して居ました) やんかい

にんじのしょんべ 【名詞】 虹の出る時の降る小雨 にんじ 参照 【会話】 ニンジナ (が) ションベ (小便) タレテオコス (してよこす) 言うて、虹な (が) 立つ

と ばらばらと雨な (が) 降る時な (が) あるやんない (でしょう)。ニンジノションベや (だ) 言いおったの (言って居たのです)。

にんじょ (にんじょう) 【名詞】 人情 人間が本来持っている心の動き 情け 思いやり いつくしみ 【会話】 人の情け ニンジョな (が) 厚い人やなあ (だ) 言うてなあ、情な (が) 有る人をなあ そすと (すると) 情 知らんひた (人は) ニンジョの薄い人やなあ (だ) 言うてなあ

にんじんのはえ 【名詞】 芽を出して少し生長した人參 【会話】 なあ (菜) やとか (だ) ニンジンノハエ したし (ひたし) に しょおや (しましよう)

にんじんもられる 人の煽てに乗る 【会話】 ニンジンモラレル。おおた あんた (貴方) 偉いなあ、あんたほんどん (本当に) なん (に) でも出来て、心は優し (優しくて) ほん (本当に) ええ (よい) 人や (だ) 言うてな 言うのを ニンジン モッテ まあ、ほめて そやして (晰して) 言うて。

にんじんもる 人を煽てる にんじんもられる参照

にんず (人数) 【名詞】 人の数 【会話】 人の数なあ (です)、こや (これは) ニンズな (が) おいなあ (多い) 言うて、ひとかず (人員) な (が) 多い事を にんずう (人数) 言わんと (言わずに) ニンズ言うて、ニンズな (が) おいて (多くて) はざんわれ (駄目だ) 言うてなあ

にんそ 【名詞】 人相 人の顔付き 【会話】 ニンソな (が) 見やんとおると (見ずにいると) 変わってなあ。

にんそおみ (にんそうみ、にんさうみ) (人相見) 【名詞】 占師 人の顔を見てその人の吉凶 禍福を予見する人 (張)

にんたいりよくのつえをはれ 【俚諺】 我慢しなさい 辛抱せよ 【会話】 一にも 二にも忍耐 ニンタイリョクノツエヲハレ 言うて 忍耐力で生きて来たのん 昔のにぎや (人間は)。

にんてい (人体) 【名詞】 その人の様子 面相 品格 人柄 【会話】 顔つきな (が) わり (悪るい) とか、ニンテイな (が) わり、にんそ (人相) な (が) わり、あのひた (人は) にんそ な わりなあ、ぬすつと (盗人) の まなこ (目) しとんなあ (している)、なんやら (なにか) 悪相やなあ 人殺し するよおな人やなあ 言うたりなあ ニンテイ な わり 言うのなあ (です)。

にんど 1) 二度 (志、多、伊、南) 2) 似るぞ 【会話】 2) あの人ん (に) ニンド あの人ん (に) にん

なよお（似るな）言うてなあ。そいな（そんな）事
すると、あの人ん（に）ニンド 言うてな 似てくの
を（似て行くのを）。₁₎ ニンド言うて にへんめ 二
ど 言うのを ニンド 二度 言うてなあ。

にんまい 二枚（員、三、四、鈴市、津、松、多、度、
北、南、尾）